

《松江キャンパス》

平成27年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成27.4.1～平成28年3.31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	山下 幸恵	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね地域共生センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進会委員長
准教授	籠橋有紀子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (研究連携・COC研究紀要)
准教授	飯塚 由美	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (公開講座・学生ボランティア推進)
准教授	工藤 泰子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (教育連携)
管理課長	岩本 幸治	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員
嘱託員	藤原香緒里	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員
ソーシャルラーニング・ コーディネーター	赤名 文	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員 (学生ボランティア推進担当)
しまね地域 共生センター	片寄 成美	<ul style="list-style-type: none"> ・健康栄養学科専門コーディネーター
	山尾 淳子	<ul style="list-style-type: none"> ・保育学科専門コーディネーター
	小倉佳代子	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化学科専門コーディネーター
	鳴尾 朋子	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局委員

平成27年度 松江キャンパスの地域連携活動概要

平成27年度の松江キャンパス地域連携推進センターでは、(1)地域自治体との共同研究を含む研究連携事業、(2)新たな「社会人の学び」体制構築に向けた「履修証明プログラム」制作および公開講座推進、(3)学生地域ボランティア活動を含む地域教育連携事業の3つを軸に活動した。正課授業・卒業プロジェクト・サークル活動を通して、あるいは学科、グループ・個人の単位でも、活発な地域貢献活動が行われた。

文部科学省「地（知）の拠点事業（大学COC事業）」の推進にむけて、キャンパス・プラットフォームとして設置された「しまね地域共生センター」により、地域連携活動の窓口の一本化をはかり、地域志向の研究と教育活動の推進につとめた。以下の目次に従って、松江キャンパスの地域貢献活動をまとめることにする。

1. 地域連携推進委員会の活動
2. 地域に関する教育・研究活動
3. 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催
4. 地域活性化支援
 - (1) 企業・団体・NPO法人等との連携
 - (2) 自治体等との連携
5. 学生による地域貢献活動
6. 教育機関等との連携－保・幼・小・中・高・大の教育連携
7. 教育課程のための地域の施設・機関との連携
8. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

平成27年度の特筆すべき活動は、「しまね地域共生センター」による「履修証明プログラム」の平成28年度開講にむけた体制構築であった。本学では、地域志向の研究や授業の進展に伴い、地域で学ぶ姿勢が学科を超えて浸透しつつある。これらの地域志向教育と研究の成果を基盤として、地域社会人向けの120時間以上の「履修証明プログラム」コースを8コース開設するよう、3学科で取り組んでいる。20年以上続く公開講座「椿の道アカデミー」、ならびに科目等履修生制度とあわせて、本学が地域社会人の新たな学びの拠り所となるよう、平成29年度事業完成年度を目指して鋭意構築を推進している。

学生サークルの自主活動にも、大きな進展があった。本学のボランティアサークル「ボルケーノ（火山）」が、平成27年度県民いきいき活動奨励賞（ユース部門）を受賞するなど、学生と地域の連携による学生ボランティアの発展が見られた。また、大学間連携を進めるサークル「学生交流ネットワーク」は、松江市観光振興公社と連携して堀川の活性化を目指す「みんなの堀川委員会」を立ち上げるなど、地域と密接に関わりつつ貢献している。ほかにもさまざまな地域連携事業で活躍する学生の姿があり、これらの学生活動を支えた教職員の真摯な地域貢献の姿勢も、学生の活動とあわせて特筆すべきと考える。

今後とも、「地域をキャンパスに」「キャンパスを地域に」の精神を念頭に置き、地域のニーズにこたえる地域貢献活動を継続していきたい。

しまね地域共生センター センター長 山下 由紀恵

1. 地域連携推進委員会の活動

松江キャンパスにおいては、地域連携推進委員会の活動内容を「公開講座および学生ボランティア活動の推進」「教育機関・その他高大連携および地域志向教育の推進」「地域志向研究の推進」の3部門に分け、それぞれ委員により窓口を分担した。

- ・委員長（地域連携推進センター副センター長） 山下由紀恵（保育学科教授）
- ・研究連携協議会、「しまね地域共生センター紀要」発行を含む地域志向研究の推進
籠橋有紀子（健康栄養学科准教授）
- ・教育連携協議会、連携協定機関を含む教育機関、ならびにその他高大連携および地域志向教育推進
工藤泰子（総合文化学科准教授）
- ・公開講座・学生ボランティアの推進
飯塚由美（保育学科准教授）

2. 地域に関する教育・研究活動

【地域志向科目の位置づけ】

平成27年度授業計画書には以下の授業を「地（知）の拠点整備事業における地域に関する学修を行う授業科目一覧」と位置付け授業計画書に掲載し、地域志向教育の推進をはかった。前期末・後期末に、FDセンターの授業評価とあわせて学生に授業アンケートを行い、実際に学修した地域の範囲と、今後希望する地域について意見をもとめた。ほぼ山陰地域を網羅した本学の地域志向教育の状況が浮かび上がっている。

平成27年度「地（知）の拠点整備事業」における地域に関する学修を行う授業科目一覧
健康栄養学科

分野区分		科目名
専門科目	専門基礎	栄養士スキルⅠ
		栄養士スキルⅡ
	食品と衛生	食品機能論
	地域と食生活	地域の特性と食材利用
	卒業研究	卒業研究

保育学科

分野区分		科目名
専門科目	福祉・保育	地域福祉論
		社会的養護
		障害児保育Ⅰ
		障害児保育Ⅱ
	卒業研究	卒業研究

総合文化学科

分野区分		科目名
共通専門科目	世界を知る	アジア文化交流
		アジア文化演習A
		アジア文化演習B
	山陰を知る	小泉八雲入門
		へるん探求
		へるん作品鑑賞
		島根の祭りと芸能
		山陰の民話とわらべ歌
	基幹科目	出雲古代史
	文化資源学系	地域を「知る」「考える」
地域文化研究		
地域探検学		
ミュージアム論		
しまねツーリズム論		
住生活学		
地域を「歩く」「書く」		観光資源学
		文化情報誌制作Ⅰ
		文化情報誌制作Ⅱ
		歴史的建造物の検証
英語文化系	英語とコミュニケーション	地域デザイン論
	英語コミュニケーションの実践	観光まちづくり学
日本語文化系	日本のことばと文学	文化とガイド
		観光フィールド・トリップ
		日本古典文学入門
	日本の文化と歴史	日本古典文学を歩く
		社会言語学
		松江の文化と歴史
		しまね歴史探訪

【履修証明プログラム開発】

拠点となるキャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」は、地域研究に関しては「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目指すことを掲げた大学憲章に合わせ、「健康・保育・文化・観光」の専門分野を活かした共同研究を推進している。平成25年度以降、その成果を活かした社会人向け「履修証明プログラム」の開発に着手していたが、平成28年度の開講に向けて、規程等の整備を行い、プログラムの準備が進行した。

健康栄養学科は、「ライフステージを通じた食育」「地域特産品と食品開発」の2つのコースを開発している。「ライフステージを通じた食育」は、栄養管理を実践してライフステージ別の栄養・食生活に関する課題や食育に関する施策について学び、管理栄養士・栄養士が専門職として食育を実践するための力を育成することを目的としている。「地域特産品と食品開発」は、食品学の基礎から、食品加工の理論と実践、島根県内の特色ある農産品および加工食品について事例を交えながら学ぶことを通して、地域の資源とその活用につ

いての理解を深めることを目的としている。

保育学科は、「障害児保育・相談支援体制」「地域子育て支援人材養成」の2つのコースを開発している。「障害児保育・相談支援体制」は、就学までの子どもの発達の偏り・遅れについて、どのように理解し、どのように支援・指導すればよいのか、保育・教育現場で悩んでいる専門職のためのコースである。「地域子育て支援人材養成」は、乳幼児から小学生までの子どもにかかわる子育て支援の理論や実践を中心に学び、地域の人材を活かした子育て支援や地域の子ども活動をリードしていくことができる人材を養成するコースである。

総合文化学科は、「地域で支える生涯学習・教育基盤」「地域文化資源の掘り起こし・評価・活用」「豊かな自然・歴史や文化を活用した観光」「地域情報の発信」の4つのコースを開発している。「地域で支える生涯学習・教育基盤」は、学校司書のための学校図書館基礎講座、および日本の古典・近現代文学、英文学等の解釈、子ども向けの読み聞かせ実践を通して、地域の教育基盤に関わる人材育成の講習を行う。「地域文化資源の掘り起こし・評価・活用」は、多様な文化の学習、子ども塾の活動を通して、地域のさまざまな文化資源をみつめなおし、それらを社会で活用、発信できる人材の育成をめざす。「豊かな自然・歴史や文化を活用した観光」は、地域の歴史、文化、観光に関する理解を深める学習や実地研修、ならびに英語による観光ガイドの実践を通して、新たにボランティア活動などを始めようとする人向けの講習を行う。「地域情報の発信」は、e-ラーニングを使った英語での伝統文化の表現方法の学習や、伝えるためのツールとしてのパソコンの実習、専門的なソフトを利用した「まち歩きマップ」の作成などを通して、地域情報発信に関わる人材向けの講習を行う。

これらの8つのコースの平成28年6月開講をめざして、平成27年度中に広報を開始したところである。

社会人の 8つの学びが 始まります

学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、鳥根県立大学短期大学部がIT+SNSで行う履修証明プログラムです。履修証明プログラムは、大学が主として社会人向けに200時間以上の体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、「履修証明書」を交付するものです。プログラムの詳細は、ホームページ等で公表していきます。

社会人の

8つの学びが

始まります

1 応募資格を確認する

- ◎ 高等学校卒業またはこれに同等以上の学力を有する方、
- ◎ 専修学校の課程修了のため、知識や技術の習得を目標とする方、
- ◎ 各コースに該当する専門職および、関連する団体等で活動経験がある方。または、今後の活動に際し学習目的のある方。

2 受講環境を確認する

- ◎ パソコンのメールで送受信ができること。
- ◎ メールアドレスの設置がある場合は、パソコンでインターネットを利用して受講できる環境であること。

3 受講内容を確認する

- ◎ ホームページ(www.u-shimane.ac.jp)から申し込み地域共生センター・履修証明プログラムのご案内のページをダウンロードし、「従来の学習」「履修証明プログラム」による履修証明プログラム講座一覧・授業計画表(PDF)をダウンロードしてください。
- ◎ (電話学習)
 - ◎ 「履修証明プログラム講座一覧」で、希望する講座の履修(修了)と受講料を確認してください。
 - ◎ コース(または単科)は複数受講できますが、その場合は「対面・公開講座」の履修に該当する方も、ご確認ください。
 - ◎ 教科書、受講料等の発費が別途必要となる場合がありますので、シラバスで確認してください。

4 申込みの受講までの流れ

5 申込書を作成する

- ◎ 3でダウンロードした「履修証明プログラム受講申込書」に必要事項を記入してください。写真貼付欄に貼付する場合は、必ず貼付してください。
- ◎ 申込書は学習プログラムを希望していただくコースごとに1冊作成し、提出してください。

6 申込書を作成する

- ◎ 申込書(印刷用)
 - ◎ 平成28年4月18日(水)～4月22日(金)午後9時までに提出してください。
 - ◎ 郵送またはメールで提出してください。
 - ◎ 郵送の場合は必ず「2」の申し込み宛封を、メールの場合は当日15時までの日付で送信されたものとします。
 - ◎ コースごとに受講料に課税した場合は課税も必要となります。
 - ◎ 提出された書類については、原則お返しできません。【お問い合わせ先】
 - 〒890-0044 鳥根県松江市赤丸7-2-2 鳥根県立大学短期大学部キャンパス
 - しまね地域共生センター 履修証明プログラム係
 - TEL: 0850-28-4922
 - E-mail: ssew@shimane-u-shimane.ac.jp

7 決定通知を受け取る

- ◎ 応募受付終了後に、提出書類をもとに総合的に判断し、選考の後、おおよそ1ヶ月以内に入課決定の通知を通知します。

8 受講料を振り込む

- ◎ 受講料は受講決定通知と併せてお知らせする口座に、指定の期日までに振り込みください。

9 受講生証、シラバス、受講ガイド等を受け取る

10 受講開始

**鳥根県立大学短期大学部
履修証明プログラム**

2016年6月から順次開講

しまね地域共生センター TEL: 0850-28-4922 http://www.shimane-u.ac.jp

鳥根県立大学短期大学部 TEL: 0850-28-4922 http://www.shimane-u.ac.jp

しまね地域共生センター TEL: 0850-28-4922

鳥根県立大学短期大学部 TEL: 0850-28-4922

しまね地域共生センター TEL: 0850-28-4922

137

【『しまね地域共生センター紀要』 vol.2の発刊】

平成25年度の研究協議会での発表を掲載した創刊準備0号、平成26年度Vol.1につづいて、平成27年9月に「しまね地域共生センター紀要」Vol.2を刊行した。本学教員の地域試行研究にあわせて、第1執筆者に一般の地域専門職が2名加わり、地域志向研究の発表のためのセンター機関紙としてさらに充実した。



【『地域研究と教育』 vol.4の作成】

今年度も、本学の過去5年間の地域と共同した研究や地域とつながる授業の取り組みをセンターが取りまとめ、紹介した。巻末に、掲載した地域志向研究と教育のリストをまとめ、連携先の地域や団体を明示した。

【研究連携協議会】

平成28年3月4日に、しまね地域共育・共創助成金採択研究をはじめとして、平成27年度中にさまざまな学内研究費を獲得して実施された地域志向研究を発表した。講評者として昨年度に引き続き松江市観光協会観光文化プロデューサーの高橋一清氏を迎え、地域志向研究の継続と進展について講評を受けた。

今年度発表研究の、発表者（共同研究の場合は代表発表者）、研究題目と、獲得研究費は以下のとおりであった。

平成27年度研究連携協議会（口頭発表題目・発表者）

<口頭発表>

・健康栄養学科 教授 酒元誠治

「浜田市高齢者健康栄養調査」

北東アジア地域学術交流研究助成金「地域貢献プロジェクト」助成事業費

「高齢者の介護予防研究のための健康調査」

島根県立大学短期大学部学長裁量特別研究費

「邑南町における稲作の5次産業化に関する研究」

しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費

・保育学科 教授 山下由紀恵

「島根県川本町におけるインクルーシブ相談支援プロジェクト」

北東アジア地域学術交流研究助成金「地域貢献プロジェクト」助成事業費

「Webシーズマップを利用した『ふるさと基盤教育』」

益田市・島根県立大学共同研究事業費

- ・総合文化学科 准教授 工藤泰子
「NPO松江ツーリズム研究会との教育連携」
しまね地域共育・共創研究助成金地域活動経費
「戦後復興期松江観光における小泉八雲—松江国際文化観光都市建設法成立を中心に—」
学術教育研究特別助成金
- ・健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子
「島根県産米の特性分析」
北東アジア地域学術交流研究助成金「地域貢献プロジェクト」助成事業費
- ・総合文化学科 教授 小泉凡
「小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の文化資源的活用に関する実践と研究」
学術教育研究特別助成金
- ・総合文化学科 教授 松浦雄二
「『出雲国風土記』の英訳研究」
しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費

<ポスター紹介>

- ・健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子
「食肉の特性を生かした調理加工方法の検討—基礎研究および学生による成果物の検討—」
しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費
- ・保育学科 講師 梶間奈保
「音への興味関心を育む研究」
学術教育研究特別助成金
- ・保育学科 教授 山下由紀恵
「民話蘇生研究」（共同研究）
学術教育研究特別助成金
- ・総合文化学科 教授 岩田英作
「島根県の民話資料の保存と整理」
学術教育研究特別助成金
- ・総合文化学科 教授 小玉容子
「小学校での「英語の読み聞かせ」活動の英語学習に対する効果と、小・中学校における英語多読の導入の方法及び効果」
しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費
- ・総合文化学科 教授 岩田英作
「『読みメン』の実態調査」
しまね地域共育・共創研究助成金基盤研究費

3. 公開講座等の開催

【平成27年度公開講座の概要】

生涯教育、地域教育の拠点として、松江キャンパスの魅力づくりを図るため導入した「椿の道アカデミー」会員制度は、平成27年度で5年目となった。

平成27年度は、まつえ市民大学、山陰民俗学会、松江ツーリズム研究会との連携講座を含む全14講座90回を開講し、延べ受講者数は1,531名であった。（参照：平成27年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況）また、申込者及び受講決定者は254名、そのうち、約96%の243名が会員登録をした。

平成27年度 公開講座会員登録者数（H28、3月末）

講座名	定員	受講決定	会員登録	登録率
1. 総合文化講座	100	79	75	95%
2. 源氏物語を読む—恋に殉じた青年の話<結編>—	100	100	96	96%
3. 風土記の語る神話・伝説—出雲国風土記を中心に—	100	110	106	96%
4. 英語絵本の音読を楽しもう	10	7	7	100%
5. 椿の道読書会	15	19	18	95%
6. 子どもがいる家庭のための英語教育実践講座2015	15	9	8	89%
7. ～続々～子育て・孫育て世代のための子ども理解講座	15	10	9	90%
8. 健康栄養講座：続 高齢者の食と健康	20	21	19	90%
9. 栄養士のためのステップアップ講座	40	13	12	92%
10. 山陰民俗学会連携講座： 民俗の行方～山陰のフィールドから考える～Part 3	100	24	23	96%
11. 民族音楽の楽しみ：ガムラン教室	25	12	12	100%
12. 案外知っているようで知らない「人」の話2	20	27	25	93%
13. 子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座	20	2	2	100%
14. 文化資源探求講座：①松江ゴーストツアー	25	26	26	100%
14. 文化資源探求講座：②「奥出雲のたたら文化」を訪ねる	40	45	45	100%
合計	645	504	481	96%
申込者実数	*	254	243	96%

【椿の道読書会】

平成27年度のこの講座では、『銀の匙』中勘介著に始まり、『火花』又吉直樹著、『春にして君を離れ』アガサ・クリスティー著、『武士の娘』杉本鉞子著、『驚きの介護民俗学』六車由実著など、様々なジャンルの本を全9冊読み、意見や感想を話合った。（講座は、全9回）受講者の方々からは、「普段読まないジャンルや著者の本を読むことで読書の幅が広がった」「他の人の意見を聞いてもう一度読みたくなった」などの声を聞くことができた。また、恒例となっている学生図書委員との合同読書会も行った。学生図書委員と受講者の方々1冊の本を通じて意見を交わし、交流をするというこの企画もとても好評なので今後も是非続けていきたいと思う。（図書館主任司書：北井由香）

【案外知っているようで知らない「人」の話2】

H26年度年から継続して開催している「心理学」のことをやさしく解説する入門講座です。これまでに扱ったテーマは、導入編「しんりがくの世界って？—どんなことやってるの」では、知覚や認知など身近な生活の中での心理と行動を紹介し、また、自分自身を知るきっかけとして、パーソナリティなどをテーマに紹介をしました。今年、H27年度に開講した続編の2では、特に、人との関わりや集団に関することが中心で、第1回が、私たちの住んでいる社会って？—自分の世界は人と同じ世界なのか、第2回は、仲間、グループ、コミュニケーション、第3回は、人との関わりどうなってるの？—身近なことと心理学、について講義をしました。若手からシニア世代の方々まで、熱心にメモをとりながら、また、質問等をされながら聴講され、こちらも楽しく勉強させていただきました。

(保育学科准教授：飯塚由美)



島根県立大学短大部松江キャンパス
公開講座



【子どもがいる家庭のための英語教育実践講座】



この講座では、子どもが小さいうちから英語に親しませたいという方のために、家庭で実践できる英語教育をテーマに、理論と実践の両面から3回に渡ってアプローチした。

まず、子どもの言語習得の仕組みを研究データを交えてお話し、言語能力を効果的にアップする方法として、家庭でできる英語環境作りを提案した。また、おすすめの教材・絵本の読み聞かせ法・手遊び・歌などを紹介し、受講者同士で実際に絵本を使った実践や、お子さんに話しかける育児英語を練習していただいた。楽しい言語環境をすることによって子どもは自然に英語を習得するという研究に基づいて、そのための具体的な方法を提案したが、家庭で行う英語教育のヒントになればという思いで今後も隔年で開講する予定である。

(総合文化学科准教授：ラング・クリス・アレキサンダー)

【文化資源探求講座】

学外に出て、山陰の文化資源を五感で観察、探求しようという趣旨の講座で、27年度もNPO法人松江ツーリズム研究会と連携し、2講座を開講した。

①松江ゴーストツアー：8月7日（金）に実施。小泉八雲が採集、再話した怪談の語りを堪能する夜の文化探訪ツアーで、今年度は日没後、堀川遊覧船に乗船し、怪談の語りを聞きながら夜の城下町の風情を楽しんでもらった。また、小泉凡教授の講演と松江の郷土料理も楽しんでもらった。参加者は19名。

②「奥出雲のたたら文化」を訪ねる：11月3日（火・祝）に実施。NPO法人出雲学研究所会員で元山陰中央新報社論説委員の岡部康幸氏と小泉凡教授が講師として同行し、金屋子神社、羽内谷鉦山鉄穴流し本場跡などを訪問した。また、奥出雲町教育委員会の協力による現地のガイドにより、地元ならではの興味深い話を聞く機会を得た。参加者は36名。



羽内谷鉦山鉄穴流し本場跡

【客員教授による講演会の公開】

27年度も各学科で客員教授による講演会を実施し、椿の道アカデミー会員や一般に公開した。各学科の客員教授講演会の概要は以下のとおりである。

①健康栄養学科

* テーマ：

「チーム（多職種）による栄養管理」「地域連携」

講 師：公益社団法人日本栄養士会会長
同志社女子大学生生活科学部
食物栄養学科 教授 小松龍史氏

日 時：平成27年11月28日（土）

参加者：学生66名、教職員12名、
学外専門職44名 合計122名



客員教授講演会 小松龍史氏

②保育学科

* テーマ：「社会的養護における支援と子育ての知恵」

講 師：児童養護施設神戸少年の町 野口ホーム
野口啓示氏

日 時：平成27年10月17日（土）

参加者：学生、教職員、学外専門職、行政関係者
合計175名



客員教授講演会 野口啓示氏

③総合文化学科

*テーマ：「田植囃子と田植草紙」

講師：島根大学名誉教授 田中瑩一氏

日時：平成27年7月15日（水）

参加者：学生154名、教職員17名、
地域の方々20名 合計191名



客員教授講演会 田中瑩一氏



客員教授講演会 田尻悟郎氏

*テーマ：「英語の学習法」

講師：関西大学教授 田尻悟郎氏

日時：平成27年10月30日（金）

参加者：学生142名、教職員19名、
地域の方々8名 合計169名

4. 地域活性化支援

(1) 企業・団体・NPO法人等との連携

松江キャンパスにおいては、27年度もNPO法人等、学外団体との協力を継続的に推進した。今年度は、健康栄養学科による食育推進での連携活動、島根県特産品の振興を図る取組み、総合文化学科の「おはなしゼミ」による県内各地での読み聞かせ活動等、多彩な連携事業を実施した。

平成27年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
邑南町における稲作の5次産業化に関する研究	松江キャンパス 健康栄養学科 教授 酒元 誠治 浜田キャンパス 総合政策学部 講師 豊田 知世	邑南町川角集落産の米の食味評価部分を分担研究。松江・浜田両キャンパスで開催された大学祭において、川角集落産の米と仁多米（横田町馬木産）との食べ比べによる比較検討を行った。	平成27年4月～ 平成28年1月	両キャンパスで開催された大学祭参加者から373名	酒元・豊田両研究室の卒論生20名が参加。
高齢者の介護予防研究のための健康調査	健康栄養学科 教授 酒元 誠治	介護予防を推進するために必要な、高齢者のMNA®-SFを用いたアセスメント、加速度式歩数計を用いた身体活動状況、体組成の実態を調査した。	平成27年4月～ 平成28年3月	浜田市在住の高齢者89名	酒元研究室の卒論生7名が参加。
浜田市高齢者健康栄養調査	健康栄養学科 教授 酒元 誠治	介護予防を推進するために必要な、高齢者の習慣的な食事摂取状況を知るために、4日間の食事実態調査を実施し、栄養素ベース、食品ベース、料理ベースの解析を行った。	平成27年4月～ 平成28年3月	浜田市在住の高齢者89名	酒元研究室の卒論生7名が参加。
平成25年度牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会	健康栄養学科 教授 名和田清子	開催支援	平成27年 10月12日		健康栄養学科1年生5名
炎症性腸疾患患者会陽だまりの会	健康栄養学科 教授 名和田清子	開催支援	平成27年 10月31日	16名	健康栄養学科1年生4名
第42回小児糖尿病大山サマーキャンプ	健康栄養学科 教授 名和田清子	開催支援	平成27年 8月2日～9日		健康栄養学科2年生2名
新産業創出研究会助成研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子 事務局 管理課長 岩本幸治	糖尿病予防および治療のための栄養価計算ソフトの開発	平成27年度	新産業創出研究会定例会議に11人出席	新産業創出研究会からの外部資金獲得による健康栄養学科教職員と企業との共同研究
産学官連携によるジビエガンボスープの考案・試作	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子 事務局 教務学生課 主任主事 雪吹重之	卒業研究成果をもとにジビエガンボスープの考案・試作（キラキラドリームプロジェクトとのコラボレーション）	平成27年6月～ 平成28年3月		健康栄養科学2年生2名参加
産学官連携企画ジビエガンボスープ試食会実施（松江市、松江市八雲猪肉生産組合、Greens Babyとの連携企画）	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子 総合文化学科 教授 小泉凡 事務局 教務学生課 主任主事 雪吹重之	松江市長を訪問しジビエガンボスープの試食会実施（キラキラドリームプロジェクトとのコラボレーション）	平成28年 3月16日	試食会に松浦正敬松江市長をはじめ松江市から4名、本学学生2名、教職員3名、その他報道関係機関など多数出席	健康栄養科学2年生2名参加 産学官連携企画

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	島根県産米の特性分析	平成27年4月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生3名参加 島根大学生物資源科学部 およびとの共同研究
島根県農業協同組合石見銀山地区本部 受託研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	「石見銀山和牛」の特性を生かす加工食品開発の研究	平成27年6月～ 平成28年3月		健康栄養科学 2年生2名参加
島根県畜産技術センター受託研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価	平成27年7月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生2名参加 島根県畜産技術センターとの受託研究
しまね地域共育共創研究助成金事業	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	食肉の特性を生かした調理加工方法の検討	平成27年4月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生2名参加 加工生産者との連携による
H27年産米の食味ランキング(日本穀物検定協会主催)出品材選定のための最終選抜審査会	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	H27年産米の食味ランキング(日本穀物検定協会主催)出品材選定のための最終選抜審査会への参加協力	平成27年 12月1日		島根県農業協同組合斐川地区本部からの依頼
県政番組(CATV)の取材・ケーブルテレビでの放映	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	つや姫のおいしさの見える化の取り組みへの技術協力および広報への協力	平成28年3月		島根県からの協力依頼
島根県農産園芸課、島根県農業技術センター受託研究	健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性及びテクスチャーを中心とした官能評価試験	平成27年12月～ 平成28年3月		健康栄養学科 2年生2名参加 島根県農産園芸課、島根県農業技術センターとの受託研究
松江市子どもとメディア推進協議会	保育学科 准教授 福井一尊	福井研究室と連携し、所属学生が啓発用のポスターをデザインした。	平成27年5月～ 平成28年2月		保育学科学生 7名
島根県障がい者アート作品展	保育学科 准教授 福井一尊	関係施設職員の研修の場としても位置づけられている公開審査会において、審査委員長を務める。	平成27年 12月2日～ 12月6日	福祉施設職員 40名	島根県立美術館にて一般公開
松江市保育研究会造形展	保育学科 准教授 福井一尊	子どもへの造形指導のための講義や解説、また展示、飾り付けの方法についての指導。	平成27年 12月4日	保育専門職員 80名	島根県立美術館にて一般公開

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
島根県保育所（園）・幼稚園造形研究会	保育学科 准教授 福井一尊	本学体育館にて公開審査会を開催。関係教職員の研修の場に位置づけられる公開審査会において、審査委員を務める。	平成27年 11月27日	保育・ 教育職員 200名	島根県立美術館にて一般公開
「子ども塾－スーパーヘルンさん講座－」 (松江市観光振興部)	保育学科 准教授 福井一尊	小学生を対象とした本事業において、造形表現活動を指導した。作品は松江市役所にて公開した。	平成27年 8月4日～ 8月25日	小学生10名	
大田市民営保育所協議会	保育学科 准教授 福井一尊	加盟園の全職員研修会において、子どもへの造形指導のための講演を行う。	平成27年 7月29日	保育職員 150名	
松江福祉会職員研修会	保育学科 准教授 福井一尊	松江福祉会所属の全職員を対象に、子どもへの造形指導のための講演を行う。	平成27年 9月15日	福祉職員 180名	
島根県中央児童相談所 (安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携)	保育学科 准教授 藤原映久	被虐待児童等の増加により児童養護施設等では心理・行動面に不安定さを抱える児童が多数生活している。これらの児童の安心・安全な生活環境を保障することを目的とする取り組み。	平成27年 4月～ 必要な期間		
NPO法人松江ツーリズム研究会への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	同NPO法人が管理・運営する小泉八雲記念館の顧問として、企画展「ラフカディオ・ハーンとアイルランドー記憶のはじまりー」の展示解説作成・監修を行う。また、ミステリーツアー（8月22日）の講師をつとめる。	平成27年4月～ 平成28年3月	ミステリーツアー参加者 約40名	
焼津小泉八雲記念館（焼津市教育委員会）への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	焼津小泉八雲記念館の名誉館長として、焼津ゴーストツアー（8月1日）、講演会「妖怪談義Part1 一つ目小僧の文化史」（8月2日）、文芸作品コンクールへのメッセージ執筆、28年度企画への助言等を行う。	平成27年4月～ 平成28年3月	参加者： 講演会・ゴーストツアー 約50名	

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
「子ども塾—スーパーヘルンさん講座—」(松江市観光振興部観光文化課主管・子ども塾実行委員会主催)への参画	総合文化学科 教授 小泉 凡 保育学科 准教授 福井一尊 しまね地域共生センター 小倉佳代子	子どもの五感力を育む教育実践第12回「子ども塾」の塾長をつとめる。テーマは「子どもヘルン八景」。島根大学属小学校の教員らと連携して実施。	平成27年4月～平成28年3月 子ども塾実施日: 7月31日、 8月4日、 8月6日	参加児童10名	
八雲会創立100年記念事業への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	八雲会創立100年—第一次創立100年・第二次創立50年—記念講演会・シンポジウムの企画・実施への協力、シンポジウムパネリストをつとめる。	平成27年 7月4日	参加者 約150名	
BSS山陰放送特別番組制作への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	BSSの特別番組「水木しげる93歳の探検記—妖怪と暮らした出雲国—(9月5日、12月31日放送)」制作監修、出演を行う。	平成27年 6月～9月		
鳥取県日野町「KWAIIDANナイト」(KWAIIDANナイト実行委員会、鳥取県日野町図書館)への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	八雲作品「幽霊滝」の伝承地、日野町の地域活性化イベント「KWAIIDANナイト」で、審査委員長として応募作品の審査、講評、講演を行う。	平成27年 8月8日	参加者 約100名	
彦根ゴーストツアー(滋賀大学・彦根観光協会主催)への協力	総合文化学科 教授 小泉 凡	滋賀県の湖東地方・湖北地方の超自然的な文化資源を探求する「彦根ゴーストツアー」で、企画への助言、当日の講師をつとめる。(1月:白と黒の章、3月:井伊直弼の章)	平成28年 1月9日・10日、 3月20日・21日	参加者 約50名	
「小泉八雲 朗読の夕べ」(松江市観光文化課)への参画	総合文化学科 教授 小泉 凡	プラバホールで開催された佐野史郎氏・山本恭司氏による「小泉八雲 朗読の夕べ—稀人:彼方より訪れしもの」の企画、実施、脚本監修、パンフレット執筆、レクチャーを担当する。	平成27年 12月13日	参加者 約500名	ティンホイッスルサークル学生5名がボランティアとして参加
アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2016(松江市観光振興部国際観光課主管、アイリッシュ・フェスティバル実行委員会主催)への参画	総合文化学科 教授 小泉 凡 准教授 工藤泰子 しまね地域共生センター 小倉佳代子	3月13日開催の同事業の実行委員長・委員として企画・運営にあたる。	平成27年10月～平成28年3月	パレード参加 300名	ティンホイッスルサークル学生など10名がボランティアとして参加
島根県立美術館「ねこまみれ」	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 5月31日	100名以上	総合文化学科おはなしゼミ学生8名参加

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
横田コミュニティーセンター	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 8月8日	20名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生3名参加
掛合公民館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 8月25日	30名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生3名参加
石川県金沢市立玉川こども図書館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 8月25日	10名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生8名参加
古志原公民館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 9月12日	50名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生3名参加
八雲公民館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 10月17日	50名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生3名参加
大田市立中央図書館	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 12月12日	20名	総合文化学科 おはなしゼミ 学生5名参加
JR西日本 「山陰みらいドラフト会議」	総合文化学科 准教授 藤居由香	地域調査を実施し、その報告書を作成提出し、山陰両県の行政担当者・JR関係者・一般市民の前で地域活性化の提案を含めたプレゼンテーションを行った。	平成27年 4月～11月	4大学から 計6チームの 参加	総合文化学科 1年生11名が 参加・浜田C 職員2名がブ レゼン見学
浜乃木7丁目 国尾自治会	総合文化学科 講師 山村桃子	グランドゴルフ大会 (8月) 防災訓練 (8月) とんど祭 (1月) くになこ 昔遊び会 (1月)	平成27年 4月～1月	ボランティア サークル volcano部員	

【健康栄養学科の地域活性化支援】

健康栄養学科では、平成27年度牛乳コンクール（島根県牛乳普及協会）（10月5日、於島根県立大学短期大学部松江キャンパス）では、学生5名がボランティアを務めた。

また、難病患者会の活動支援のため、健康栄養学科教員および学生がボランティアとして活動した〔炎症性腸疾患患者会研修会「陽だまりの会（松江市）」（10月19日、教員1名、学生4名）、小児糖尿病患者会「第40回小児糖尿病大山サマーキャンプ（主催：日本糖尿病協会島根県支部「大山家族）」にて教員1名、学生2名（8月5日～12日）〕。

健康栄養学科における島根県産品の振興を図る継続的な取り組みとして、西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発、西条柿冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿の開発および西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発、しまね和牛のおいしさの科学分析、およびその成果を活かした食品加工への提案、出西生姜や米味噌とのコラボレーションによる食品開発等を行った。島根県産米「つや姫」や「きぬむすめ」、有機栽培米の分析を行い、品種や栽培方法の違いによる特性について検討した。



熟柿ピューレを用いた「美肌の国キーマカレー」



西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発では、松江市東出雲町の柿農家と健康栄養学科教員（赤浦和之教授）および学生2名が協力し、松江市商工企画課の支援も受けて熟柿ピューレを用いた秋鹿ごぼうと熟柿ピューレ入りレトルトカレー「美肌の国 キーマカレー」の商品名で商品化した。平成27年10月29日に松江市長他市関係者、ピューレ生産者、販売業者、開発を担当した卒業生2名も出席し、松江市庁舎で試食会が開催された。平成27年11月25日には、松江フォーゲルパークで、一般の人向けの発表会が開催され、施設内レストランメニューにも加えられた。次年度も引き続き、地域の活性化の観点から、西条柿では、西条ガキ熟柿の生産技術の開発と熟柿ピューレを用いた加工食品の開発を行う。

「しまね和牛肉」の食味研究では、新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価について、健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生2名が島根県畜産技術センターとの受託研究において協力し、官能試験および理化学分析を用いて「しまね和牛肉」の食味を科学的に評価し、データの提供を行った。また、しまね地域共育共創研究助成金事業において、島根県産の食肉、すなわち牛肉

および猪肉について、その加工方法の提案を健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生2名が行った。出西生姜の機能性も加え、松江市八雲産の猪肉の特性を活かしたガンボスープ（小泉八雲が愛したニューオリンズのソウルフード）を、健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生2名で、小泉凡教授のご協力のもと作成した。食の機能性と文化の融合による島根県立大学のオリジナリティあふれる調理加工品の提案となった。平成28年3月16日、松江市庁舎で試食会が開催され、給食への展開や商品化への提案もなされた。JA石見銀山地区本部との受託研究では物性測定による「石見銀山和牛」の特性評価を健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生2名で行った。次年度も引き続き、「しまね和牛肉生産技術の開発および品質評価手法の検討」を目的として、「しまね和牛肉」の食味について理化学分析および官能評価等の手法を用い、基礎データの集積・提供および加工に関する技術協力をを行う。また、研究成果を活用方法の提案および加工食品の開発を行う。



(上) 島根県産猪肉を使ったガンボスープ
(下) 松江市での試食会の様子

また、島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金（地域貢献プロジェクト）において、健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生3名が参加した。松江市西長江エコ米グループおよび島根大学生物資源科学部と健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）および学生3名との連携により、有機農産物の中でも今年度より有機米に着目し、食味について官能評価、理化学分析を行い、試食販売等にその成果を活用した。島根県農業技術センターにおいて栽培された有機米の官能評価および理化学分析も合わせて行った。また、島根県産米「つや姫」の科学分析では、温暖化により品質の低下している平坦地域の「コシヒカリ」に替わる米として、「つや姫」の普及拡大を目的に、島根県、島根県農業技術



島根県産米の官能評価



理化学分析の様子

センターと共同で官能試験、理化学分析（電子顕微鏡で炊飯米断面の構造を観察、テンシプレッサーで炊飯米物性（粘りと硬さ）を機械的に測定）を行った。品種や栽培地域の違いによる品質特性について検討した。また、現代のライフスタイルに合った島根米活用方法の提案を行った。

健康栄養学科教員（酒元誠治教授）および学生7名が、浜田市の高齢者89名を対象として、介護予防を推進するために必要な、高齢者のMNA®-SFを用いたアセスメント、加速度式歩数計を用いた身体活動状況、体組成の実態について浜田市と連携して調査を行った。さらに、介護予防を推進するために必要な、高齢者の習慣的な食事摂取状況を知るために、4日間の食事実態調査を実施し、栄養素ベース、食品ベース、料理ベースの解析を行った。

健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授）は、平成24年度に取得した「糖尿病予防及び治療に寄与する2件の発明に対する特許を活かして、産学官の連携による糖尿病予防のための栄養価計算ソフト、経管栄養剤の実用化を検討している。平成25～26年度の基礎研究の強化および山陰発技術シーズ発表会 in とっとりへの参加をへて、企業とのマッチングをはかり、平成27年度は、新産業創出研究会から研究助成金を獲得し、産学官連携による糖尿病予防および治療のための栄養価計算ソフトの試作に着手した。



特許の内容パンフレットおよび新産業創出研究会助成金によるソフトウェア開発の試み（会議の様子）

【保育学科の地域活性化支援】

保育学科においては、福井一尊准教授が、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問として県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成27年11月27日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成28年1月14日から18日まで「第11回島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展」として展示・公開された。また、島根県西部からの入選作品は、1月21日から24日まで浜田市世界こども美術館でも展示・公開された。

また福井一尊准教授は、平成27年12月4日に社会福祉法人島根県社会福祉協議会主催の「平成27年度島根県障がい者アート作品展」において、審査委員長として絵画・書・写真・デザイン・工芸等作品の公開審査を行った。本展覧会は12月4日から6日まで島根県立美術館で開催された。

また、平成23年度に山下由紀恵教授・森山秀俊教授・福井一尊准教授が、NPO法人あ

しぶえ・松江市健康福祉部子育て課との共同研究を通じて開発した「松江発－保育専門職のための『表現とコミュニケーション』ワークショップ・プログラム」の効果を土台として、昨年度に引き続いて本年度も保育学科の正課「児童文化」にNPO法人あしぶえによるワークショップを組み込み、一部連携した授業を実施した。

【総合文化学科の地域活性化支援】

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークとの共催による「医療英語勉強会」(ラング・クリス准教授)の開催、英語絵本の読み聞かせ(小玉容子教授)、卒業プロジェクトおはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施(岩田英作教授)、NPO松江ツーリズム研究会と連携した文化資源をツーリズムに生かす実践活動(小泉凡教授)、(一社)鉄の歴史村地域文化研究所と連携した観光教育の実践(工藤准教授)など、昨年引き続き、活発な活動が行われた。

*「キッズイングリッシュ」の英語絵本読み聞かせ活動

平成27年度の「キッズイングリッシュ」(担当は小玉容子教授、ダスティン・キッド講師、総合文化学科2年前期)受講生15名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせ」を行った。6月から7月にかけて、絵本や紙芝居の読み聞かせと歌や手遊びなどを組み合わせ、20分程度の時間で計20回実施した。



キッズイングリッシュでの活動

学生たちは、出版されている絵本だけでなく、授業で作成した教材なども用いて、児童英語教育実践活動を行うことができた。子供たちだけでなく保護者も一緒になっての活動となった。また、学生の実践力向上にとって貴重な体験となった。

*医療英語勉強会

「医療英語勉強会」は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワークと連携し、平成20年4月から平成28年3月にかけて、月に一度金曜日の午後に2時間ほど勉強会を実施している。勉強会参加者は、10名程度である。(担当はラング・クリス准教授)勉強会では、実際の医療場面を想定したテキスト文の日本語から英語への翻訳学習を行ない、診療科ごとの通訳会話役割練習を行なう他、医療に関する研究報告をビデオでみてから、ディスカッションすることで、医療用語を身につけることを目的とした。

*おはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施

総合文化学科の卒業プロジェクト「おはなしゼミ」(担当は岩田英作教授)の学生たちは、毎週金曜日、松江市立忌部小学校で読み聞かせの活動をしている。この取組みは、平成21年度から継続して行われており、1学年20名程度のクラスで、全学年で絵本を開いて子どもたちと向き合っている。

*ミステリー・ツアーの企画・実施

昨年度に引き続き、山陰地方の文化資源をツーリズムに活用する実践としてミステリー・ツアーを企画・実施した。実施日は8月22日（土）で、訪問先は参加者に事前に明かさな
い。小泉凡教授がNPO法人松江ツーリズム研究会旅行事業部と連携して企画・運営・当
日の講師をつとめた。27年度は、「水木しげると小泉八雲」をテーマとし、境港の正福寺（地
獄絵が水木少年に衝撃を与えた）、水木しげる記念館、美保関地区の小泉八雲ゆかりの場所、
美保関町諸喰（水木少年に多大な感化を与えた「のんのんばあ」の出身地）などを訪問した。

*雲南市吉田町における観光教育の実践

工藤泰子准教授は、平成25年度から（一社）鉄の歴史
村地域文化研究所をはじめとする吉田町の人々と連携し
た観光教育を実践している。「観光資源学」（総合文化学
科1年後期選択科目）において、履修生46名が、たたら
製鉄の歴史と文化を観光に活かすことをテーマに、鉄の
歴史博物館、菅谷たたら山内、生活伝承館などを訪問した。



雲南市吉田町における観光教育の実践

*松江カラコロ工房の実態調査

「観光まちづくり学」（総合文化学科2年後期選択科目、担当は工藤泰子准教授）の履修
生19名と有志学生2名（計21名）は、NPO松江ツーリズム研究会の依頼を受け、観光施設（カ
ラコロ工房）来訪者のヒアリング調査を実施した。10月3日（土）、4日（日）に来訪者
209名を対象に調査した後、グループに分かれてデータの入力・分析を行い、12月17日に
報告会を実施した。調査結果は報告書にまとめ、関係機関に配布した。

*松江城ボランティアガイドの実践

卒業プロジェクト（観光文化ゼミ）では、山本素久氏
（NPO松江ツーリズム研究会理事長）のご指導を受け、
学生3名が松江城のボランティアガイドを行った。千葉
県、岡山県、広島県からのお客様をご案内し、参加者か
らは「わかりやすい案内だった」「学生さんの気配りが
よかった」などの声をいただいた。



松江城ボランティアガイドの実践

*出雲市佐田町における地域活性化をめざしたフィールドワークの実施

卒業プロジェクト「民俗・文化資源ゼミ」では、出雲市地域づくりアドバイザー・吾郷
秀雄氏と連携し、出雲市佐田町毛津地区をフィールドに生活文化伝承の聞き取り調査を行
い、報告書をまとめて地域に配布した。また、学生が生業・食文化・年中行事・人生儀礼・
信仰など分野ごとに伝統文化を文化資源として活用するための提案を行った。さらに同地
区で郷土料理の作り方を学び、JA出雲創作おにぎりコンテストに「けづおこわ」として
応募した。

(2) 自治体等との連携

松江キャンパスは、平成19年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、教育連携協議会の開催や、「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。

このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成28年2月9日に包括協定を結ぶ松江市と「松江市・島根県立大学松江キャンパス・教育連携協議会」を開催し、実習協力や講師派遣について実務的な連携について協議した。

【平成27年度 松江市・島根県立大学短期大学部松江キャンパス教育連携協議会】

実施要綱

- ◆ 主催 島根県立大学短期大学部松江キャンパス
- ◆ 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室
- ◆ 日時 平成28年2月9日（火） 16時00分～17時00分
- ◆ 議事
 - (1) 松江キャンパス新学部・学科の特色及び育成する人材像の概要
 - (2) 松江キャンパス4大化に係る課題解決に向けた連携体制について
 - (3) 実習（栄養士・保育士・幼稚園教諭）受け入れ協力について
 - (4) 講師の相互派遣についての実績と計画
 - (5) 松江市の諸団体との連携・協力状況について
- ◆ 出席者
 - ・松江市政策部次長 須山敏之
 - ・松江市政策部政策企画課主任主事（包括協定担当）平塚 稔
 - ・松江市教育委員会次長 小塚 豊
 - ・松江市健康福祉部子育て課長 林 忠典
 - ・松江市産業観光部観光課長 二村 眞
 - ・松江市発達・教育相談支援センター（エスコ）所長 小脇 洋

 - ・松江キャンパス副学長 岸本 強
 - ・松江キャンパス健康栄養学科長 名和田清子
 - ・松江キャンパス保育学科長（兼しまね地域共生センター長） 山下由紀恵
 - ・松江キャンパス総合文化学科長 鹿野一厚
 - ・松江キャンパス地域連携推進委員会（教育連携担当） 工藤泰子
 - ・松江キャンパス事務室長 柴田政樹
 - ・松江キャンパス管理課長 岩本幸治

【松江市主催文化教育行事への協力】

* 「第12回子ども塾—スーパーヘルンさん講座」への協力

松江市観光文化課および「子ども塾実行委員会」主催による、子どもの五感力育成の教育実践である標記事業に、総合文化学科の小泉凡教授（塾長）、保育学科の福井一尊准教授（特別講師）、小倉佳代子地域連携コーディネーター（実行委員）が企画・運営・実施に協力し



第12回子ども塾—スーパーヘルンさん講座

た。実施日は、平成27年7月31日、8月4日、8月6日。会場はおもにカラコロ工房周辺。テーマは「子どもヘルン八景」。

* 「小泉八雲 朗読の夕べ 稀人：彼方より訪れしもの」への協力

松江市観光文化課主催により平成27年12月13日にプラバホールで開催。総合文化学科の小泉凡教授が、佐野史郎氏・山本恭司氏出演による上記イベントの企画、実施、脚本監修、パンフレット執筆、レクチャーを担当する。本学、ティンホイッスル・サークル学生5名もボランティア・スタッフとして参加した。

なお、同行事は2015年10月にアイルランドの3都市でも開催され、ダブリン市・ウォーターフォード市開催時に、小泉凡教授がレクチャーを行った。

* 「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2016」への協力

松江市国際観光課・山陰日本アイルランド協会・南殿町商店街が実行委員会・松江京店商店街協同組合等が組織してアイルランドと松江の文化交流・松江の文化振興および中心市街地活性化の目的で実施する行事で、平成27年3月13日に開催。

総合文化学科小泉凡教授・工藤泰子准教授・小倉佳代子地域連携コーディネーターが実行委員として、松江キャンパスのティンホイッスル・サークル、総合文化学科1・2年生約10名の学生がボランティア・スタッフとして参加した。

* 「共創・協働マーケット」

松江をよくする提案を共有し事業につなげる場として、昨年につき、松江市主催「2015・12松江共創・協働マーケット」（2015/12/16）が開かれた。学外からは、大学への求めを知る機会となり、大学からは、しまね地域共生センターおよび学生ボランティア活動などの紹介を中心に、大学にできることの可能性を広報した。

* 「地域力醸成コンファレンス」

県内公民館等と連携・協働の可能性を探る場として、平成27年度地域力醸成コンファレンスinしまね（文部科学省委託事業）（2015/11/27）が開かれた。公民館等はアイデアの実践化を目指し、大学は地域のニーズを知る場として参加し、協議した。

【松江市立女子高等学校との連携】

平成27年10月21日、松江市立女子高等学校1年生のキャリア教育推進に協力して、1年生全員(119名)のキャンパス見学と模擬授業、および卒業生交流会を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から工藤泰子准教授により「近代松江の観光」というテーマで行われた。講義後は、松江市立女子高等学校卒業の本学学生(4名)との交流会があり、質疑応答が行われた。

【正課授業における連携協力】

*保育学科専門科目における、学外の専門職現任者および経験者による講義——保育学科専門科目「障害児保育I」(1年後期必修科目・1単位)の非常勤講師として、松江市立発達・教育相談支援センター相談支援係長の小脇洋講師、同指導主事の金山由美子講師、山根司津子講師により、支援の必要な子どもの実態や松江市の取り組み・関係機関との連携等についての講義が行われた。保育学科専門科目「児童館(児童クラブ)の機能と運営」(1年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、松江市立東津田児童館の石倉優子講師により、実際の児童館活動に関する講義が行われた。保育学科専門科目「乳児保育」(2年前期必修科目・2単位)の非常勤講師として、元松江市子育て支援センター所長の井上恵美子講師により、長年にわたる豊富な現場経験を基に講義が行われた。保育学科専門科目「地域福祉論」(2年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、元松江市社会福祉協議会常務理事で、松江保健生協 まちづくり事業推進室の須田敬一講師により、松江市における地域福祉の実践例を通じた講義が行われた。

*総合文化学科専門科目においては、以下の通り、学外の専門職現任者および経験者による授業や協力が行われた。「しまねツーリズム論」(文化資源学系2年後期選択科目・1単位)の学外講師として、鳥根県商工労働部観光振興課長の藤井洋一氏、松江市産業観光部観光文化課観光係長の井川浩介氏が授業(各1回)を担当した。また現地研修において、「地域探検学」(文化資源学系1年生前期選択科目・1単位)では奥出雲町地域振興課、「日本文化演習」(日本語文化系2年生前期選択科目)では鳥根県立美術館、「ミュージアム論」(文化資源学系1年生後期選択科目)では鳥根県立美術館と松江歴史館の全面的な協力を得て授業を実施した。

松江市立施設・学校における実習協力——健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立保育所、松江市立幼保園のぎ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている(実習欄に別掲)。

このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成28年2月9日に松江市以外の自治体・団体と「鳥根県立大学松江キャンパス・教育連携協議会」を開催し、実習協力や講師派遣についての、実務的な連携について協議した。

【平成27年度 島根県立大学短期大学部松江キャンパス教育連携協議会】

実施要綱

- ◆ 主催 島根県立大学短期大学部松江キャンパス
- ◆ 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室
- ◆ 日時 平成28年2月9日（火） 14時40分～15時40分
- ◆ 議事
 - (1) 教育研究上の協力連携の実績と計画について
 - (2) 本学の教育研究についての意見・評価
- ◆ 出席者
 - ・ 特定非営利活動法人あしぶえ 有田美由紀
 - ・ 出雲町地域振興課企画員 石富仁志
 - ・ 一般社団法人 鉄の歴史村地域文化研究所代表理事 高木朋美
 - ・ 特定非営利活動法人 松江ツーリズム研究会 山下武之
 - ・ 出雲市地域づくりアドバイザー 吾郷秀雄

 - ・ 松江キャンパス副学長 岸本 強
 - ・ 松江キャンパス健康栄養学科長 名和田清子
 - ・ 松江キャンパス保育学科長（兼しまね地域共生センター長） 山下由紀恵
 - ・ 松江キャンパス総合文化学科長 鹿野一厚
 - ・ 松江キャンパス総合文化学科教授 小泉 凡
 - ・ 松江キャンパス地域連携推進委員会（教育連携担当） 工藤泰子
 - ・ 松江キャンパス事務室長 柴田政樹
 - ・ 松江キャンパス管理課長 岩本幸治

5. 学生による地域貢献活動

【学生の自主的なボランティア活動】

平成22年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援している。27年度の学生のボランティア保険加入は、502名。また学生の活動先は、以下のとおりであった。

- 東日本災害ボランティア
 - いわてGINGA-NETプロジェクト春銀河2015（岩手県沿岸部）
- 障がい者・高齢者支援ボランティア
 - 「東部島根医療福祉センター」「泉の園」「かんの里」「まるベリーパンまつり」ほか
- 障がい児支援ボランティア
 - 「出養ほかほかクラブ」「島根大学教育学部たんぽぽまつり」ほか
- 保育所・幼稚園・学童保育ボランティア
 - 松江市立保育園のぎ「のぎっこまつり」「運動会」、みのり保育園「夏まつり」
 - 松江市立乃木小学校「放課後のぎっこ広場」ほか

- 島根県立青少年の家 サン・レイク
- 国立三瓶青少年交流の家
- 大田市山村留学センター「冬の山村留学」ボランティア
- 出雲市「地域日本語教室」ボランティア
- 松江市保育所保護者連合会「子ども美術展」運営ボランティア
- 「第22回えびす・だいこく100kmマラソン大会」運営スタッフ
- 「松江シティフットボールクラブ」試合運営スタッフ
- 「2015松江市環境フェスティバル スポーツ清掃大会」運営補助
- 「第9回ひらた100km徒歩の旅」運営スタッフ
- 「NHK歳末・海外たすけあいフェア」運営ボランティア
- 「平成28年松江市成人式」運営ボランティア

この他、島根県内外の多くの地域イベントや保育園（所）・幼稚園、小学校、公民館などにおいて、個人でボランティア活動を行った。また学生サークルによるボランティア活動が活発に行われた。

■ 学生交流ネットワーク

国尾自治会と共催で「くにっ子昔 あそび会」を開催。地域のお年寄りと小学生・大学生の交流会に30人が参加した。

■ ボランティアサークルvolcano（ボルケーノ）

自治会行事へのボランティア参加、ボランティア報告会開催などの地域貢献活動が認められ、島根県の平成27年度県民いきいき活動奨励賞を受賞した。

【キラキラドリームプロジェクト】



キラキラドリームプロジェクトは、学生が企画する独創的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助し学生の夢の実現を応援しています。学生の自主性・積極性・創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、好きになれるものを見つける機会となり、より充実した学生生活を送ってもらうことを目的として平成25年度から始まりました。今年度は4組の団体が公開審査会でプレゼンテーションをおこない、全事業が採択されました。

7月1日の募集説明会后、エントリーを希望する学生は、企画の発想法、商品化のプロセス、顧客ターゲットと商品コンセプト、企画書の作り方等を勉強会で学びます。また、各グループには指導教員が付き、企画立案と実行のサポートをおこないます。学生だけの力で実現できない場合、行政、地域の団体、民間企業とマッチングをおこない、支援をいただきながら活動をおこなっています。企画の多くが、地域問題を解決したり、地域活性化を目指したりする企画で、学生のヒラメキが地域のキラメキになっています。1年間の活動の後、この事業をきっかけにサークル化し活動を継続する団体が多くみられます。

（教務学生課主任：雪吹重之）

● 公開審査会の様子



プレゼンテーションに向けて、入念な準備をして挑みます。会場は熱気に包まれ、真剣そのものです。



プレゼンテーションの方法は自由。自分たちの想いを伝えるために、衣装にも力が入ります。



審査委員からは鋭い指摘と温かいアドバイスがあります。



自分たちの夢を語り、全てを出し切った後の安ど感で思わず笑みがこぼれます。

● 平成27年度採択プロジェクト（4団体）

◎ ドリーム枠（採択額20万円）

- ▶ ゴーストみやげ研究所「ゴーストみやげ第2・3弾」
～怪談をもっと美味しく、楽しくしたい～



小泉八雲ゆかりの怪談にまつわるおみやげを作るプロジェクトです。昨年度は企業とのコラボレーションで「ほういちの耳まんぢう」を作りました。今年度も、「小泉八雲」を知ってもらうための怪談にまつわる商品を作り、「怪談」＝「小泉八雲」＝「松江」をより定着させたいという想いで活動します。

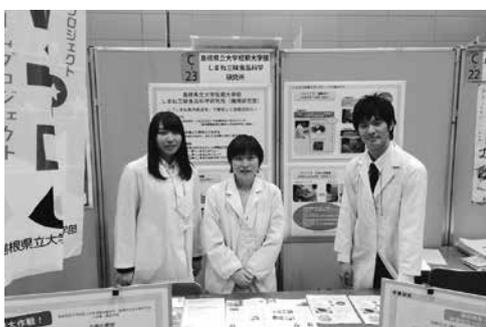
◎キラキラ枠（採択額 各団体10万円）

- ▶ 革命短大生「松江国際ライフサポートプロジェクト」
～国際×防災×松江～誰もが住みやすい町づくり～



松江に住む外国人の方々に、少しでも安心して過ごしてもらいたいという想いで、行政のサポートが届きにくい部分を補うように、防災教育と交流事業を実施します。日本語が不慣れな方々には、英語文化系での学びを活かして、英語で分かり易く伝えます。

- ▶ しまね三味食品科学研究所「ジビエ活用大作戦」
～ジビエの美味しい魅力を再発見して利用拡大！～



近年、全国的にイノシシやシカの捕獲数が増加しています。しかし、その捕獲されたものの1割程度しか食肉用として流通していない現状を知り、もっと有効利用できないかと考えました。そこで、健康栄養学科での学びを活かし、もっと美味しく食べてもらえるジビエの商品開発をおこなうことにしています。

- ▶ 松江市感幸隊（まつえしかんこうたい）「SHINY☆PROJECT」
～夜の松江に光を観（魅）せよう～



松江の観光施設を舞台に、照明・光を使ったアートで、夜の松江の観光活性化を図ります。松江の観光にプラスαの企画を提案し、若い年齢層を対象に「夜にふらっと立ち寄る」観光のきっかけ作りを考えています。

● 活動内容紹介

採択プロジェクトのうち、野生鳥獣の肉（ジビエ）を活用して商品開発をおこなった、しまね三味食品科学研究所「ジビエ活用大作戦」の活動内容を紹介します。当プロジェクトでは、健康栄養学科籠橋有紀子研究室の卒業研究における成果を活かし、島根県産農作物の未利用素材とジビエの特性を利用して、ガンボスープを開発しました。ガンボスープは、小泉八雲が新聞記者の時代に過ごしたアメリカ・ニューオーリンズで親しまれている郷土料理であり、食物繊維を豊富に含み、とろみと濃厚なうまみの特徴のエスニックなスープのことです。これを、小泉八雲が文献に残したレシピをもとに再現し、小泉凡教授等と試食を重ねて完成しました。

● 企画の動機

健康栄養学科の学生として鳥根県産の食肉について卒業研究を進めていくうちに私たちは禽獣の食肉としての利用が極端に少ないという現状を知りました。幼いころに地域のイベントで食べたイノシシ鍋がとてもおいしかった記憶があり、「なぜこんな状況なのか」と不思議に思い、「どうしたら変わるのだろうか」ということを考え、活動をしてきました。

県土の7割を山林が占める鳥根県にとって、禽獣による農作物への被害は小さいものではありません。もしも禽獣に価値が見いだされたとすれば、今までの「厄介者」が「ビジネスチャンス」へと変わるかもしれません。

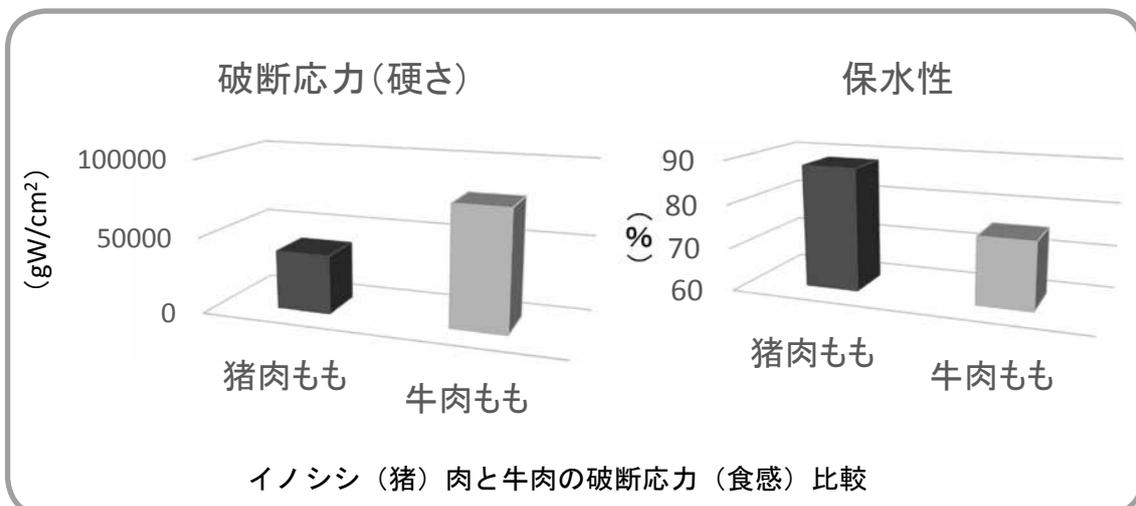
私たちは今回、鳥根県の害獣被害額の7割程を占めているイノシシについての研究、調理法の提案を行うことを目的としました。

● 活動内容

◎イノシシ肉の特性分析

プロジェクトの第一段階として、イノシシ肉の特性を知ることから始めました。卒業研究の一部として、イノシシ肉の水分含量、保水性、破断応力という観点から分析を行いました。まず、食感を数値化する機械（テンシプレッサー）を使って、破断応力を計測しました。その結果として、イノシシ肉は牛肉と比べてやわらかい、また脆さを示す値においても優れているという特徴から、つまり加熱調理を行っても肉がパサパサ、ホロホロになりにくいということがわかってきました。水分含量、保水性を分析した結果、両社ともイノシシ肉は牛肉に比べて優れていることがわかりました。そこで、それらの特徴を生かした調理法の提案をしたいと考えました。

イノシシ肉については八雲町のイノシシ肉生産組合の土屋さんにご協力いただき、処理施設の設置に関する解説をしていただき、解体の様子も見学させていただきました。本プロジェクトに使用するイノシシ肉は八雲町イノシシ肉生産組合より購入したものです。

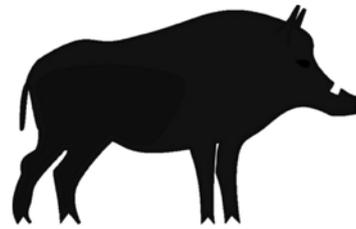




卒業研究において
肉の破断応力（食感）分析している様子

イノシシ肉は

- ・やわらかい・保水性が高い。
- ☞もちもちして やわらかい食感



イノシシ肉の特徴について

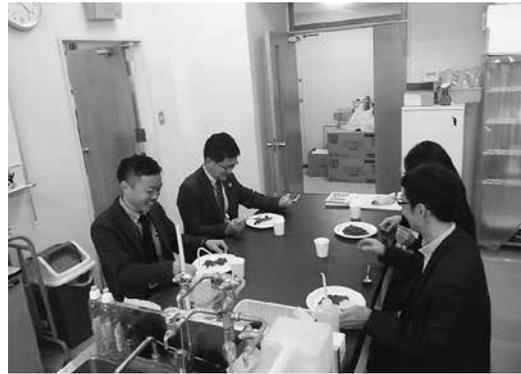
◎調理法の模索

イノシシ肉には加熱しても煮崩れにくいという特徴があり、それを生かすためには煮込み調理を行うことが良いのではないかと考えました。最初にイノシシ肉のミンチを用いたミートソースを作り、次にカレーを作りました。両方ともとてもおいしかったのですが、「私たちにしか作ることでできないレシピ」を目指して試行錯誤を続けました。そんな中、松江市内でエスニック料理店を営んでおられる柏井さんと出会い、イノシシ肉×エスニック料理という新しい分野へのヒントをいただくことが出来ました。柏井さんの協力の下でイノシシ肉をケバブの具材にしたりと、今までのイノシシ調理とは一線を画す料理ができました。

エスニック料理について調べていくうちに、松江市および本校とゆかりのある小泉八雲の愛した「ガンボスープ」という料理があることを知り、本校総合文化学科教授の小泉教授の協力の下で小泉八雲が愛した当時に近いとされるレシピでガンボスープを試作しました。ガンボスープは見た目にはカレーに近いものですがほかのどの料理とも異なる風味があり、イノシシ肉の特徴とも相性が良いのではないかと思います。

卒業研究の成果をもとに発案・試作を経て試食会（第一弾）





試作品（左上：サモサ、右上：米粉ピザ（イノシソース）、
左下：イノシケバブ、右下：学内試食会の様子）

今後の展開

「島根県産のイノシ肉×松江ゆかりの小泉八雲が愛した逸品」というコンセプトの下、ガンボスープの可能性を探っていくために2015年12月に開催されたオールしまねCOC+事業「しまね大交流会2015」イベントに参加し、様々な企業の方とお話をする機会を得ました。その中でレトルト食品として販売するのはどうかといった提案をしていただいたり、地域食材の利用する上ではどういう点に留意しなければならないのかについてアドバイスをいただいたり、多くの来場者の方の興味を引くことが出来たのではないかと思います。また、ガンボスープに入れるオクラについて、ガンボスープ発祥の地であり、松江市の姉妹都市であるニューオーリンズ市からいただいたオクラの種を育てたものを用いてはどうか、というアイデアをいただきました。ガンボスープを通じての国際交流という可能性を鑑み、これを機に松江市へ働きかけを行おうと考えました。3月に松浦市長に試食いただける席を設けていただいたので、その際に大きなインパクトを与えられるようにしたいと考えております。もしも、松江市とのコラボが実現すれば、学校給食としてのガンボスープを登場させることを目指したいと思います。



試作したガンボスープ！

● キラキラドリームプロジェクトに取り組んだ感想

【健康栄養学科2年 山本豪】

プロジェクトを始めた時はイノシシ肉の利用率向上につながりやすい、一般家庭の食卓に上りやすいレシピを考案しようかと漠然と考えていました。しかし、プロジェクトを進めていくにつれて当初は全く頭になかったエスニック料理という選択肢が出てきたり、今まで面識のなかった小泉教授にご協力いただいたりと考えてもみなかった状況になり、ただただ驚いています。自分一人ではたどり着けなかったであろうこの状況を作り出したのは、森脇さんや指導教官の籠橋先生の力であったり、教務学生課の雪吹さんをはじめ、柏井さん、土屋さんなど、このプロジェクトに関わったすべての人たちのおかげであると感じています。改めて感謝申し上げます。

【健康栄養学科2年 森脇未貴】

今回のプロジェクトを通して、私の地元である島根県の野生鳥獣の問題について改めて考えることができました。私は今までイノシシ肉を食べる機会がなく、知識もほとんどなかったため、イノシシ肉は独特な風味があって食べにくいものだという偏見をもっていました。しかし、実験や試作を通して、イノシシ肉は優れた特性を持ち、きちんと処理をしたものなら臭みがなく、どんな料理にも合うということがわかりました。COCイベントでさまざまな方とお話をさせていただいた際に、やはりイノシシ肉は他の肉と比べて食べにくいと思っている方が多い印象を持ちました。現段階でゴールとはなりませんでしたが、これからも続くであろうこのプロジェクトを通してイノシシ肉についてもっと知ってもらい、美味しいものだと認識してもらえたらと思います。また、新しいものを一から生み出すことや商品化をすることの難しさ、人とのつながりの大切さを感じることができ、とても貴重な経験になりました。今回、このような経験をすることができたのは、たくさんの方々のおかげだと思います。ありがとうございました。

【volcanoの活動】

平成27年度におけるボランティアサークル volcano（ぼるけーの）は、北野りんご園の作業と、浜乃木七丁目国尾自治会との連携活動を中心におこなった。自治会との交流は昨年度1月から開始したものであり、今年度は年間を通して本格的に活動に加わった。



国尾自治会グランドゴルフ大会

自治会との交流イベントや防災訓練などへの参加の体験をもとに、飛鳥祭では「あったかれっじ交流会」をおこなった。本部員と国尾自治会員、卒業生OBが集合し、学生が日頃どのようなボランティアに取り組んでいるかをパワーポイントで報告し、また自治会の方々との自由な意見交換をおこなった。

こうした自治会との活動や、学内でのボランティア啓発が評価され、平成27年度県民いきいき活動奨励賞（ユース部門）を受賞した。今後もこれらの活動を基軸としながら、学生の興味に応じたボランティア活動を実行していく予定である。

（総合文化学科講師：山村桃子）

*平成27年度volcanoの主な活動

- H27年 5・6月 北野りんご園（雲南市奥出雲町） 袋がけ
- 8月 国尾自治会 夏祭り
- 国尾自治会 ハゼ釣り
- 国尾自治会 グランドゴルフ大会
- 国尾自治会防災隊 防災訓練
- 10月 飛鳥祭 あったかれっじ交流会（国尾自治会との共催）
- 11月 北野りんご園 摘果
- H28年 1月 国尾自治会 とんど祭
- 国尾自治会 くにつこ昔あそび会（学生交流ネットワークとの共催）



北野りんご園摘果作業



飛鳥祭における「あったかれっじ交流会」

【ティンホイッスル・サークルの活動】

平成27年6月15日（月）にLIVE&BAR MIZで、山陰日本アイルランド協会のアイリッシュバンド「Ceol agus Craic」も参加し、セッション形式での演奏を行った。7月25日（土）白濁天満宮の夏の例大祭に合わせて行われた松江市市民活動センター主催「SITC市民活動おかげまつり・夏祭り」のステージで演奏、11月15日（日）には出雲市で開催された、出雲中心市街地にぎわい創出実行委員会主催「いずも多文化・にぎわいのある街づくり」交流広場での演奏を行った。12月21日（月）に松江市東出雲町揖屋駅に併設された「町の駅女寅」のクリスマスコンサートで演奏をし、地元の方との交流を行った。平成28年3月12日（土）・13日（日）に開催されたアイリッシュ・フェスティバル in 松江2016のセント・パトリックス・デイ・パレードで演奏を披露しながらパレードに参加するとともに、アイリッシュ・パブ「シャムロック」や屋台村の設営等、イベントのボランティア・スタッフとして協力した。

6. 教育機関等との連携一保・幼・小・中・高・大の教育連携

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校・松江商業高校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、教育的成果をあげている。

【連携校協議】

平成27年7月3日に、幼保園のぎ、乃木小学校と松江キャンパスの三者連携会議を松江キャンパスで行った。また、平成27年5月15日と平成28年2月22日に、湖南中学校、松江商業高校、松江キャンパスの三者連携会議が、松江商業高校で行われた。なお、27年度は本学が当番校として三者連携会議を推進した。

このような緊密な教育上の連携をふまえて、「連携校教育研究会」が8月17日に本学2号館第7講義室で開催された。講師は島根県教育庁教育指導課学力育成スタッフの佐藤誠指導主事（兼）企画幹、テーマは「今なぜアクティブ・ラーニングか」。初等中等教育における主体的・協働的学習（アクティブ・ラーニング）の成り立ちと必要性を、体感しつつ学ぶ、有意義な研究会となった。出席者は、松江商業高校14名、湖南中学校11名、乃木小学校5名、幼保園のぎ1名、本学教員11名・本学職員10名、計52名であった。

平成27年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生	備考
出雲市立第3中学校	健康栄養学科 教授 名和田清子	食育授業	平成27年 11月27日		全生徒670名 教員10名 参加
松江市立乃木小学校	健康栄養学科 教授 直良博之 嘱託助手 葉迫靖子	食育授業 「生物リズムと食事」	平成27年 12月9日	健康栄養 2年生4名	5年生 157名参加
安来市立能義小学校	健康栄養学科 教授 直良博之 嘱託助手 葉迫靖子	食育授業 「生物リズムのお話」 「朝ご飯を食べよう」	平成28年 12月22日		3～6年生 46名、 保護者25名、 教員10名
鳥根県立江津高等学校	保育学科 講師 矢島毅昌	進学説明会	平成27年 11月9日		幼児教育・保 育学について の説明
松江市立湖南中学校	総合文化学科 教授 小泉 凡	総合的学習の時間「地 域探検の魅力」	平成27年 6月15日		湖南中 1年生171名
松江市立出雲郷小学校	総合文化学科 教授 小泉 凡	総合的学習の時間 「小泉八雲について」	平成27年 10月19日		出雲郷小 4年生72名
松江市立内中原小学校	総合文化学科 教授 小泉 凡	英語活動の時間「小泉 八雲とアイルランド」	平成28年 1月21日		内中原小 4年生120名
揖屋保育園	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 5月21日	総文3名	
出雲郷保育園	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 9月8日	総文3名	
松江市スティックビル	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 9月14日	総文3名	
鹿島子育て支援センター	総合文化学科 教授 岩田英作	読み聞かせ	平成27年 9月18日	総文3名	
松江市立幼稚園のぎ	総合文化学科 教授 岩田英作 教授 マユアキ	3学科共通科目 「読み聞かせの実践」	平成27年5月～ 平成28年1月	総文32名 健康栄養3名 保育22名	
松江市立乃木小学校	総合文化学科 教授 岩田英作 教授 マユアキ	3学科共通科目 「読み聞かせの実践」	平成27年5月～ 平成28年1月	総文32名 健康栄養3名	
松江市立忌部小学校	総合文化学科 教授 岩田英作 教授 マユアキ	総合文化学科卒業プロ ジェクト 「おはなしゼミ」	平成27年5月～ 平成28年2月	総文11名	
松江市立女子高等学校	総合文化学科 准教授 工藤泰子	鳥根県立大学短期大学 部松江キャンパス交流 会「近代松江の観光」	平成27年 10月21日		1年生119名

出張講座（高大連携）の状況

（大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合）

相手先	日程	テーマ（会場）	時間	回数	担当者	参加者数
鳥根県立三刀 屋高等学校	平成27年 2月23日（火）	明日のしまねを担う高校生 キャリア教育推進事業図書館 がっつぐ学びの輪	14：00～17：00	1	岩田英作 （総合文化学科教授）	30
松江市立女子 高等学校	平成27年 5月25日（月）	「郷土理解」五感でとらえた明 治の松江～小泉八雲の世界～ 講義および現地研修	9：00～12：50	1	小泉 凡 （総合文化学科教授）	30

【健康栄養学科の教育機関連携】

松江市立乃木小学校での食育授業は、松江市立湖南中学校、松江市立乃木小学校との三者連携推進事業をきっかけに平成19年度から始まり、今年度で9年目を迎えた。健康栄養学科教員（直良博之教授、葉迫靖子嘱託助手）と学生4名が取り組み、生物リズムと食事について、朝ごはんを食べることの重要性を児童と一緒に考えながら実施した。



松江市立乃木小学校での食育授業

【保育学科の教育機関連携】

保育学科の正課「児童文化」では、1年生2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成27年度「第42回ほいくまつり」は、平成27年6月27日（土）に島根県民会館大ホールで開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。



「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的に開催され、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うこととなります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんなで悩みながら進めていくこととなります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのです。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



平成27年6月27日 第42回ほいくまつり 保育学科一同

【総合文化学科の教育機関連携】

総合文化学科では、岩田英作教授・マユアキ教授とともに、「読み聞かせの実践」を履修する学生（全学科）、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生が、松江市乃木小学校、忌部小学校、幼保園のぎなどで、絵本の読み聞かせ活動を行った。（「3. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動」参照）

また、総合文化学科の教員は、湖南中学校の「総合的な学習の時間」に協力した。詳細は以下の通りである。

* 湖南中学校1年生「総合的な学習の時間」への協力授業

総合文化学科の2名の教員は、湖南中学校における総合的な学習の時間に、専門分野や総合文化学科の担当授業の内容を生かして、昨年に引き続き協力授業を行った。小泉凡教授の授業は平成27年6月15日「地域探検の魅力」、高橋純教授の授業は10月1日「発表の仕方」であった。

7. 教育課程のための地域の施設・機関との連携

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

【健康栄養学科の実習施設・機関との連携】

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成27年度に実施した県内施設を下表に示した。実習終了後は、評価票の提出を求め、また、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付し連携を図った。また、実習先の管理栄養士を本学非常勤講師として招聘したり、学生を鳥根県栄養士会の研修会に参加させる等して連携強化を図っている。

平成27年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
鳥根	松江赤十字病院	2	8/31～9/4
	松江市立病院	4	8/24～8/28
	独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター	2	9/7～9/11
	松江市立北学校給食センター	2	9/7～9/11
	松江市立南学校給食センター	3	9/7～9/11
	鳥根県立中央病院	3	8/31～9/4

地区	実習依頼先	実習人員	日程
島根	万田の郷	2	9/7～9/11
	出雲市立出雲学校給食センター	2	9/7～9/11
	出雲市立斐川学校給食センター	2	9/14～9/18
	安来市立十神小学校学校給食	1	9/7～9/11
	雲南市立三刀屋学校給食センター	2	9/7～9/11
	町立奥出雲病院	1	8/24～8/28
	大田市立大田市学校給食センター	1	8/31～9/4
	独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター	2	9/7～9/11
	浜田市立三隅小学校	1	9/24～9/30
鳥取	米子市立学校給食センター	2	9/7～9/11
	鳥取市立気高中学校学校給食センター	1	9/7～9/11
広島	県立安芸津病院	1	9/14～9/18
	尾道市立市民病院	2	9/14～9/18
	福山市民病院	1	8/31～9/4
山口	山口市立さくら小学校	1	9/7～9/11
岡山	医療法人社団 清和会 笠岡第一病院	1	8/31～9/4
宮崎	医療法人社団 聖山会 川南病院	1	8/24～8/28
	医療法人久康会 平田東九州病院	1	8/17～8/21

【保育学科の実習施設・機関との連携】

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第1209001号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成27年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立城東保育所、松江市立白濁保育所、松江市立掛屋保育園、しらとり保育所、しらゆり保育園、つわぶきこども園、つわぶき保育園、なかよし保育園、みどり保育所、愛恵保育園、ふたば古志原保育所、松江ナザレン保育園、松江保育所、松尾保育所、嵩見保育所、袖師保育所、虹の子保育園、法吉保育所、あおぞら保育園、ふたば第三保育所、湯町保育所、松原保育園、育英保育園、たけかや保育園	1年前期・保育実習Ⅰ（保育所） 2年前期・保育実習Ⅱ（保育所）
	島根県出雲市	出雲市立直江保育園、ハマナス保育園、神門保育園、神門第2保育園、荘原保育園、ひかり保育園、出東保育園、たちばな保育園、平田保育所、さとがた保育園、出雲サンサン保育園、たいしゃ保育園	
	島根県雲南市	雲南市立三刀屋保育所、雲南市立大東保育園	

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県安来市	安来市立安来保育所、安来市立広瀬保育所	1年前期・ 保育実習Ⅰ (保育所) 2年前期・ 保育実習Ⅱ (保育所)
	島根県飯南町	赤名保育所	
	島根県大田市	大田市立鳥井保育園、サンチャイルド長久さわらび園、 あゆみ保育園	
	島根県江津市	のぞみ保育園	
	島根県美郷町	おおち保育園	
	島根県益田市	高津保育園、緑ヶ丘保育所	
	島根県隠岐の島町	隠岐の島町立原田認定こども園	
	鳥取県米子市	米子市立あがた保育園、米子市立南保育園、えんぜる保育 園、ひばり保育園、夜見保育園	
	鳥取県境港市	境港市立あがりみち保育園、梅檀保育園、あまりこ保育園	
	鳥取県倉吉市	倉吉市立上小鴨保育園	
	鳥取県鳥取市	むつみ保育園	
	鳥取県南部町	南部町立ひまわり保育園	
	鳥取県琴浦町	みどり保育園	
	広島県庄原市	高野保育所	
	広島県三次市	三次市立こうぬ保育所	
	広島県福山市	宮前保育所	
	愛媛県久万高原町	久万保育園	
	愛知県みよし市	みよし市立みどり保育園	
	東京都八王子市	白百合欄田保育園	
	山形県鶴岡市	鶴岡市立大東保育園	
福岡県福岡市	まごころ保育園		
長崎県長崎市	長崎市立中央保育所		
児童館 ・児童 クラブ	島根県松江市	東津田児童館、八雲児童センター、大庭地区第1児童クラ ブ、大庭地区第2児童クラブ、古志原地区第1児童クラブ、 古志原地区第2児童クラブ、津田第1児童クラブ、津田第 2児童クラブ	1年後期・ 保育実習Ⅲ
児童福祉 施設等	島根県松江市	松江赤十字乳児院、双樹学院、松江学園、松江整肢学園、 国立病院機構松江医療センター、島根県立わかたけ学園、 しのめ寮	2年前期・ 保育実習Ⅰ (施設)
	島根県出雲市	さざなみ学園、児童心理療育センターみらい	
	島根県安来市	安来学園	
	島根県浜田市	聖喙寮、こくぶ学園	
	島根県隠岐の島町	仁万の里児童部	
	鳥取県米子市	米子聖園天使園	
幼稚園	島根県松江市	松江市立幼保園のぞ、松江市立城西幼保園、松江市立古志 原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立母衣幼稚園、松 江市立雑賀幼稚園、松江市立大庭幼稚園、松江市立竹矢幼 稚園、松江市掛屋庭幼稚園、松江市立忌部幼稚園、松江市 八雲幼稚園、松江市立玉湯幼稚園	2年前期・ 後期・教育 実習

区分	所在	施設・機関名	備考
幼稚園	島根県安来市	安来市立安来幼稚園、安来市立広瀬幼稚園	2年前期・後期・教育実習
	島根県出雲市	出雲市立出東幼稚園、出雲市立大津幼稚園、出雲市立長浜幼稚園、出雲市立神西幼稚園、出雲市立荒木幼稚園、出雲市立湖陵幼稚園、認定こども園光幼稚園、北陵認定こども園北陵幼稚園	
	島根県雲南市	雲南市立海潮幼稚園	
	島根県大田市	大田市立大田幼稚園	
	島根県江津市	江津市立江津幼稚園	
	島根県浜田市	夕日ヶ丘聖母幼稚園	
	島根県益田市	益田幼稚園、益田天使幼稚園	
	鳥取県米子市	みずほ幼稚園、東みずほ幼稚園、かもめ幼稚園、良善幼稚園、認定こども園かいけ心正こども園	
	鳥取県境港市	聖心幼稚園	
	鳥取県湯梨浜町	湯梨浜町まつざきこども園	
	鳥取県北栄町	北栄町立北条こども園	
	鳥取県倉吉市	認定こども園倉吉幼稚園倉吉保育園	
	鳥取県鳥取市	小さき花園幼稚園、修立幼稚園	
	広島県三次市	三次中央幼稚園	
	広島県尾道市	新高山めぐみ幼稚園	
	愛媛県久万高原町	久万高原町立直瀬幼稚園	
	愛知県みよし市	ベル三好幼稚園	
	東京都町田市	境川幼稚園	
	山形県鶴岡市	羽陽学園短期大学附属大宝幼稚園	
長崎県長崎市	日見幼稚園		

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

「保育実習Ⅲ」については、実習施設を保育学科が選定して実習指導委員会を設けている。実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成27年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は上の表のとおりであった。

8. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

【読み聞かせの活動】

幼保園のぎ、乃木小学校での実践は、保育学科、総合文化学科の1年生のうち、「読み聞かせの実践」を履修した51名が参加した。忌部小学校での読み聞かせ並びに本学おはなしレストランライブラリーで行なう「おはなしのじかん」は、総合文化学科2年生のうち、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の9名が参加した。「おはなしのじかん」は、常時30名前後の親子連れの来館があった。

とくに「おはなしのじかん」の特別企画として開催した7月の七夕会、10月の大学祭企画、12月のクリスマス会、そして3月の感謝祭では、100名を超える親子連れでにぎわった。

学外の保育所や図書館などからの要望を受けて読み聞かせに出かける「出前シェフ」は、平成27年度は合計12か所で活動を行なった。松江市内の保育所や子育て支援センター、公民館、島根県立美術館、大田市立中央図書館、三刀屋高校など県内各地で学生たちは多くの子どもたち、地域の人たちとの出会いを経験した。



島根県立美術館での読み聞かせ



クリスマス会

平成27年度 おはなしレストランの読み聞かせ活動

- ◆松江市立幼保園のぎでの実践（5月～7月、11月～1月の毎週月曜日）
参加した学生数 56名
- ◆松江市立乃木小学校での実践（5月～7月、11月～1月の毎週水曜日）
参加した学生数 56名
- ◆松江市立忌部小学校での実践（4月～7月、10月～3月の毎週金曜日）
参加した学生数 8名
- ◆おはなしレストランライブラリーでの実践（4月～月の毎週日曜日）
参加した学生数 9名
- ◆出前シェフ（不定期）12カ所での実践
参加した学生数 11名

【おはなしレストランライブラリー】

保育学科の梶間奈保教授が企画した「音のレストラン」が、今年度から始まった。1回目は、ビオラの演奏者、生原幸太さん、2回目はマリンバの演奏者、瀧禎子さんをお招きし、絵本の読み聞かせに合わせ、楽器の演奏を披露していただいた。来館者からは「身近で楽器の生演奏を聴くことができて楽しかった」と好評だった。



音のレストラン

学外からの来館者数と貸出冊数ともに昨年度より大幅に増えた。特に夏休みは、たくさんの親子連れで賑わった。幼稚園や養護学校、児童クラブ等、団体での来館も定着しつつある。

おはなしレストランライブラリー
月平均の来館者人数・貸出冊数
(平成27年4月～平成28年2月)
学内：来館者324人、貸出378冊
学外：来館者1329人、貸出5053冊

【あまんきみこさん講演会・金沢での読み聞かせ・ボランティア活動】

おはなしレストランでは、平成27年10月31日（土）・11月1日（日）の両日、児童文学作家あまんきみこさんをお迎えし、初日はおはなしレストランライブラリー、2日目は大講義室で多くの学生・一般の方々であまんさんのおはなしをうかがった。

おはなしゼミでは夏に金沢市立玉川子ども図書館の見学&読み聞かせを体験し、「やまたのおろち」の紙芝居などを行った。おはなしレストランライブラリーを利用した、カンボジアの子どもたちに文具や衣類を送る活動も、市民の皆様と協力して本年度も行った。



あまんきみこさん講演会



金沢市立玉川子ども図書館での実践

平成 27 年度 公開講座「椿の道アカデミー」開催状況

実施日	時間	講座名	講師	受講者	
6月10日	水 14:00～15:20	01.総合文化講座(全8回)	平和論を考える カント・西周・アーレントの平和論を読む	村井洋(浜田キャンパス)	47
6月24日			戦後70年 社会の動きとマスコミ報道～ 映画・TV・新聞の動向を中心に～	瓜生忠久(浜田キャンパス)	43
7月15日			昭和の東京オリンピックと観光教育	工藤泰子	35
7月29日			ムスリム観光客の増加と異文化理解	塩谷もも	34
9月9日			小説の愉楽—漱石『夢一夜』を読む	岩田英作	43
9月16日			地域再生のまちづくり<住居編>	藤居由香	29
10月30日			文化とコミュニケーション	橋本由里(出雲キャンパス)	27
11月11日			現代アイルランドとラフカディオ・ハーン —アイルランド記念事業を終えて—	小泉凡	33
6月1日～ 12月7日	月 14:40～16:10	02.源氏物語を読む—恋に殉じた青年の話<結編>— (全6回)	三保サト子(本学名誉教授)	335	
6月26日	金 15:00～16:30	03.風土記の語る 神話・伝説—出雲 国風土記を中心 に— (全5回)	播磨国風土記の語る神話	81	
7月24日			風土記逸文の語る神話(山城・尾張・伊 勢など)	68	
8月28日			中国地方の風土記逸文(因幡・伯耆・備 後など)	72	
9月18日			風土記の語る著名な神話・伝説(駿河・ 丹後など)	68	
9月25日	風土記の語る温泉伝説(出雲・伊予・伊 豆など)	65			
7月27日～ 7月31日	月 ～ 金 10:40～12:10	04.英語絵本の音読を楽しもう(全5回)	小玉容子、 ダスティン・キッド	14	
5月18日～ 2月15日	月 14:00～16:00	05.椿の道読書会(全9回)	北井由香	121	
6月19日～ 7月3日	金 10:30～12:00	06.子どもがいる家庭のための英語教育実践講座 2015 (全3回)	ラング・クリス	15	
10月13日	火 14:00～15:30	07.～続々～子育て て・孫育て世代の ための子ども理解 講座 (全3回)	「子どもを理解する」という営みを考える	6	
10月20日			「子育て」と「母親」「父親」との関係を考える	7	
10月27日			「最近の子どもは…」と語る社会の姿を 考える	8	
8月11日	火 19:00～20:30	08.健康栄養講 座:続 高齢者の 食と健康(全7回)	高齢化と島根の食材①	籠橋有紀子	11
8月18日			高齢者の身体と特徴	直良博之	12
9月1日			高齢者の認知症予防	山下一也(出雲キャンパス)	13
9月8日			生活習慣病と上手に付き合うために	安藤彰朗	11
9月15日			ロコモティブ・シンドローム	伊藤智子(出雲キャンパス)	12
9月29日			高齢化と島根の食材②	赤浦和之	11
10月6日			骨粗しょう症、メタボ予防のための食事	名和田清子	12
7月8日～ 12月16日	水 19:00～21:00	09.栄養士のためのステップアップ講座(全12回)	健康栄養学科教員	60	
8月1日～ 9月6日	土 日 10:30～16:15	09.栄養士のためのステップアップ講座(集中講義)(全4回)	健康栄養学科教員	5	
7月4日	土 13:00～15:00	10.山陰民俗学会 連携講座:民俗の 行方～山陰のフイ ールドから考える ～Part3(全4回)	民話「子育て幽霊」に見る母性愛	酒井薫美(山陰民俗学会会長)	10
7月11日			歳徳神の祭	品川知彦(島根県立古代出雲歴史博物 館学芸企画課長)	13
7月25日			法規の神や仏、祭り	福代宏(鳥取県立博物館学芸員)	10
8月8日			伝統行事の伝承と学校教育—石東地域 における正月行事を事例に—	多田房明(大田市立鳥井小学校校長)	7
5月16日～ 12月5日	土 14:00～15:30 B講座/ 15:30～17:00	11.民族音楽の楽しみ:ガムラン教室(全12回)	瀬古康雄 (本学元教授)	73	
5月23日	土 13:30～15:00	12.案外知っている ようで知らない 「人」の話(全3 回)	私たちの住む世界って?—自分の世界 は人と同じなの?	飯塚由美	18
5月30日			仲間、グループ、コミュニケーション	18	
6月6日			人と人との絆—サポートネットワーク	19	
8月2日	土 14:00～16:00	13.子どもの困っ た行動に対処す る養護・保育のス キルアップ講座: コモンセンス・ベ アレンディング (全7回)	わかりやすいコミュニケーション	1	
8月9日			良い結果・悪い結果	2	
8月23日			効果的な誉め方	1	
8月30日			予防的教育法(休講)	0	
9月6日			問題行動を正す教育法	2	
9月13日			自分自身をコントロールする教育法	2	
9月27日			フォローアップ	2	

実施日	時間	講座名	講師	受講者	実施日
8月7日	金 16:00～20:30	14.文化資源探求講座	松江ゴーストツアー・納涼堀川遊覧船と小泉八雲【怪談】のタベ	小泉凡	19
11月3日	月 9:30～17:30		「奥出雲のたたら文化」を訪ねる	岡部康幸(NPO 法人出雲学研究所会員)、小泉凡	36
計					1531

平成 27 年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員氏名	依頼者	内容(テーマ等)	日付
1	名和田清子 (健康栄養学科教授)	公益社団法人島根県栄養士会	平成 27 年度生涯教育研修会 基本研修「調査研究」講義及び基本研修「栄養管理記録」演習	平成 27 年 7 月 25 日
2	名和田清子 (健康栄養学科教授)	出雲保健所	平成 27 年度炎症性腸炎患者・家族学習会(出雲地区)「炎症性腸炎の食事について」「夏の軽食&スイーツを作って楽しもう」	平成 27 年 8 月 9 日
3	名和田清子 (健康栄養学科教授)	安来市	平成 27 年度食の連絡会議研修会「食育活動を広げよう～第 2 次食育推進計画の策定にあたって～」	平成 27 年 8 月 21 日
4	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県私立保育園連盟	島根県私立保育園連盟研修会講師「島根の給食、島根の食育」	平成 27 年 8 月 29 日
5	名和田清子 (健康栄養学科教授)	公益社団法人島根県栄養士会	特定保健指導担当者研修会「特定健康診査・特定保健指導とは」「特定健康診査・特定保健指導とは」「依頼書の見方」「特定保健指導の実際」「行動変容ステージ」「栄養カウンセリング」「特定保健指導の実際」	平成 27 年 10 月 4 日・10 月 24 日
6	名和田清子 (健康栄養学科教授)	松江保健所	平成 27 年度炎症性腸炎患者・家族学習会(松江地区)「冬に向けて食事で気をつけたいポイント」及び調理実習「おいしい料理で心もあつたかに」	平成 27 年 10 月 31 日
7	名和田清子 (健康栄養学科教授)	県央保健所	平成 27 年度炎症性腸炎患者・家族学習会(大田地区)「冬に向けて食事で気をつけたいポイント」及び調理実習「おいしい料理で心もあつたかに」	平成 27 年 11 月 1 日
8	名和田清子 (健康栄養学科教授)	出雲市立第 3 中学校	出雲市立第 3 中学校学校保健委員会講演講師「食と健康」	平成 27 年 11 月 27 日
9	名和田清子 (健康栄養学科教授)	雲南保健所	平成 27 年度炎症性腸炎患者・家族学習会(雲南地区)講演 炎症性腸疾患における食事療法の豆知識～おいしく食べて、いきいきと生活するために～及び調理実習「おいしい料理で心もあつたかに」	平成 27 年 12 月 6 日
10	名和田清子 (健康栄養学科教授)	松江市	平成 27 年度まつえ市市民大学「いきいき健康コース」第 13 回講座「食と健康の危ない関係」	平成 28 年 1 月 29 日
11	名和田清子 (健康栄養学科教授)	出雲保健所	平成 27 年食育推進研修会講師「関係機関が連携した食育の展開～家庭や地域へのアプローチについて講演、活動紹介における助言者」	平成 28 年 3 月 1 日
12	山下由紀恵 (保育学科教授)	松江市子育て支援センター	平成 27 年度子育て学習会講演「子どもと関わる上で大切なこと」	平成 27 年 7 月 25 日
13	山下由紀恵 (保育学科教授)	島根県教育センター	平成 27 年度幼保小連携講座「学びの芽生えから教科までをどうつなぐか」	平成 27 年 7 月 30 日
14	山下由紀恵 (保育学科教授)	島根県健康福祉部	平成 27 年度市町村職員等専門研修(児童福祉司任用資格認定講習会)講師「母子関係理論と発達心理学」	平成 27 年 8 月 7 日・8 月 11 日
15	山下由紀恵 (保育学科教授)	川本町保育研究会	川本福祉会職員研修会講師「日々の生活や遊びの中でみえてくる子どもの発達について」	平成 27 年 10 月 31 日
16	山下由紀恵 (保育学科教授)	松江市保育研究会	平成 27 年度保育研究会第 5 分科会指導助言	平成 27 年 11 月 21 日
17	山下由紀恵 (保育学科教授)	川本町	川本町子育て学習会講師「子どもと関わる上で大切なこと」	平成 27 年 12 月 19 日
18	山下由紀恵 (保育学科教授)	島根県社会福祉協議会	平成 27 年度保育士(再)就職支援セミナー「HUG! くむセミナー」講師「新しい保育保育課題への対応」「子どもの発達と保育」	平成 28 年 2 月 20 日・2 月 27 日
19	岸本 強 (保育学科教授)	大田市保育研究会	大田市保育研究会研修会 演題「子どもの遊びを通した運動」	平成 27 年 7 月 11 日
20	藤原映久 (保育学科准教授)	児童養護施設 聖鳴寮	施設内研修会講師 演題:子どもの性行動の理解と対策	平成 27 年 7 月 13 日
21	藤原映久 (保育学科准教授)	松江赤十字乳児院	養育を考える会 助言者	平成 27 年 7 月 27 日・10 月 26 日
22	藤原映久 (保育学科准教授)	島根県健康福祉部	平成 27 年度島根県市町村職員等専門研修会(児童福祉司任用資格認定講習会)講師 演題:児童福祉論(浜田・松江)	平成 27 年 8 月 7 日・8 月 11 日
23	藤原映久 (保育学科准教授)	島根県児童館連絡協議会	平成 27 年度島根県児童厚生員等第 2 回研修会講師 演題:個別援助活動	平成 27 年 12 月 6 日
24	藤原映久 (保育学科准教授)	岡山県保健福祉部	平成 27 年度岡山県基幹的職員研修会講師 演題:児童福祉施設における施設内暴力の理解と対応	平成 27 年 12 月 16 日
25	藤原映久 (保育学科准教授)	鳥取県児童館連絡協議会	2015 年度鳥取県児童館連絡協議会職員研修会講師 演題:放課後児童クラブの存在意義と基本的役割	平成 28 年 1 月 18 日
26	藤原映久 (保育学科准教授)	島根県健康福祉部	基幹的職員研修講師 演題:組織的対応とアセスメントについて	平成 28 年 3 月 16 日

NO.	教員氏名	依頼者	内容(テーマ等)	日付
27	矢島毅昌 (保育学科講師)	松江市保育研究会	第9回松江市保育研究会第3分科会(袖師保育所)指導助言者	平成27年11月21日
28	小泉 凡 (総合文化学科教授)	和歌山県広川町教育委員会「稲むらの火の館」	第1回稲むらの火講座「オープン・マインドで生きるー浜口梧陵と小泉八雲をめぐってー」	平成27年5月4日
29	小泉 凡 (総合文化学科教授)	近畿松江会	創立10周年記念大会講演 「松江の文化資源、小泉八雲を現代に活かす」	平成27年5月24日
30	小泉 凡 (総合文化学科教授)	日本ギリシャ協会	第42回総会講演「ラフカディオ・ハーンを現代に活かすーギリシャ発、文化資源化への試みー」	平成27年6月12日
31	小泉 凡 (総合文化学科教授)	松江市城東公民館	文化講演会「ラフカディオ・ハーンを現代に活かす」	平成27年6月18日
32	小泉 凡 (総合文化学科教授)	朝日カルチャーセンター湘南	文化講座 「八雲のいたずらー小泉家に起こった不思議なお話」	平成27年7月25日
33	小泉 凡 (総合文化学科教授)	新宿歴史博物館	協働企画展「熊本・新宿をつなぐ作家 漱石・八雲」 記念講演会「小泉八雲を現代に活かす」	平成27年7月26日
34	小泉 凡 (総合文化学科教授)	焼津小泉八雲記念館	焼津小泉八雲記念館トークショー 「一つ目小僧の文化史」	平成27年8月2日
35	小泉 凡 (総合文化学科教授)	鳥取県日野町	日野町図書館開館20周年記念講演会 「地域資源として活かす小泉八雲と怪談」	平成27年8月8日
36	小泉 凡 (総合文化学科教授)	中国5県高等学校教頭・副校長会研究協議会	第29回中国5県高等学校教頭・副校長会研究協議会 記念講演「教育者 ラフカディオ・ハーン」	平成27年8月10日
37	小泉 凡 (総合文化学科教授)	第54回日本SF大会 実行委員会	第54回日本SF大会(米子)における異考之慶応大学 教授との対談公開対談「小泉八雲とSF的想像力」	平成27年8月29日
38	小泉 凡 (総合文化学科教授)	日本ローエル協会	日本ローエル協会研究会2015(松江)基調講演 「文化資源としてのハーンとローエル」	平成27年9月5日
39	小泉 凡 (総合文化学科教授)	西日本不自由児施設 運営協議会	第60回西日本不自由児施設運営研究会 記念講演 「オープン・マインドで生きる！ー小泉八雲を現代に活かすー」	平成27年9月11日
40	小泉 凡 (総合文化学科教授)	松江怪談談義 実行委員会	松江怪談談義 「怪談のふるさと松江で語る小泉八雲」講師	平成27年9月11日
41	小泉 凡 (総合文化学科教授)	鳥取県立生涯学習センター	平成27年度「未来をひらく鳥取学」国際化科目講座講師 「オープン・マインドで生きる！ー小泉八雲を現代に活かす実践からー」	平成27年9月13日
42	小泉 凡 (総合文化学科教授)	関西成城会	関西成城会平成27年度総会 記念講演会 「ひ孫からみた小泉八雲と現代社会」	平成27年10月3日
43	小泉 凡 (総合文化学科教授)	The Little Museum of Dublin(Ireland)	Considering Lafcadio Hearn's Open Mind from the Point of View of One Descendant	平成27年10月8日
44	小泉 凡 (総合文化学科教授)	島根大学	島大ミュージアム学講師 「文化資源としての小泉八雲」	平成27年10月23日
45	小泉 凡 (総合文化学科教授)	日野市郷土資料館	ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語ー勝五郎生誕 200年記念展ー講演会「文化資源としての人と物語ー 小泉八雲の世界をめぐってー」	平成27年10月24日
46	小泉 凡 (総合文化学科教授)	平山郁夫美術館	朗読と尺八の世界 星空のファンタジア「八雲と賢治の 出会い」講師対談 小泉 凡×宮澤和樹	平成27年11月1日
47	小泉 凡 (総合文化学科教授)	中国地区高等学科王文化連盟	第17回高校生文芸道場中国ブロック大会(島根大会) 講演会「文化資源としての作家と文学」	平成27年11月6日
48	小泉 凡 (総合文化学科教授)	ヘルン先生鳥取倶楽部	ヘルン先生鳥取倶楽部 創立記念集会講師 「文化資源として活かす小泉八雲」	平成27年11月8日
49	小泉 凡 (総合文化学科教授)	「草枕」国際俳句大会実行委員会	第20回「草枕」国際俳句大会 記念講演会 「文化資源としての人と文学ー小泉八雲の世界からー」	平成27年11月21日
50	小泉 凡 (総合文化学科教授)	尾道市立大学	第7回尾道文学三昧 記念講演会 「文化資源としての人と文学ー小泉八雲をめぐってー」	平成27年12月5日
51	小泉 凡 (総合文化学科教授)	兵庫県教育委員会	ひょうご子ども読書推進フォーラム講演会講師・シンポ ジウムパネリスト「地域資源としての小泉八雲」	平成27年12月20日
52	小泉 凡 (総合文化学科教授)	愛知学院大学	愛知学院大学 旅の文化研究会 講師 「『小泉八雲』を旅する」	平成27年12月22日
53	小泉 凡 (総合文化学科教授)	明治学院大学	明治学院 ケルティッククリスマス 2015 講師 「ラフカディオ・ハーンとケルト口承文化の世界」	平成27年12月23日
54	小泉 凡 (総合文化学科教授)	松江市立中央図書館	平成27年度「小泉八雲に学び・親しむ」講師 「ハーンと防災教育ー「稲むらの火」と濱口梧陵を活か すとくみー」	平成27年12月26日
55	小泉 凡 (総合文化学科教授)	一般社団法人松江観光協会	平成27年度ボランティアガイド研修会講師 「小泉八雲と現代ー松江からみる世界のハーンー」	平成28年2月17日
56	小泉 凡 (総合文化学科教授)	横浜あざみ野ロータリークラブ	国際ロータリー第2590地区 インターシティー・ミーティ ング 講演会「オープン・マインドを現代に活かすー小 泉八雲から考えるー」	平成28年2月27日
57	岩田英作 (総合文化学科教授)	鳥取県立図書館	読みメンパーク in とっとり 講師	平成27年6月14日
58	岩田英作 (総合文化学科教授)	島根県児童館連絡協議会	児童厚生員研修会講師	平成27年9月13日
59	岩田英作 (総合文化学科教授)	NPO おやこ劇場	おやこ劇場 「おとうさんの読み聞かせで子どもを笑顔に」講師	平成27年10月25日
60	岩田英作 (総合文化学科教授)	西ノ島町立中央公民館	しまね子ども読書フェスティバル 講師	平成27年11月22日
61	山村桃子 (総合文化学科講師)	島根県教育長文化財課古代文化 センター	出雲国風土記連続講座 第二講 講師	平成27年9月26日

2 審議会委員等

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
1	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県	松江圏域健康長寿しまね推進会議委員	平成16年4月～
2	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県	島根県食育・食の安全推進協議会委員	平成19年4月～
3	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県	島根県健康長寿しまね推進会議委員	平成17年4月～
4	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県	島根県環境農業推進協議会副委員長	平成19年4月～
5	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県	島根県糖尿病専門委員会委員	平成19年4月～
6	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県教育委員会	学校給食表彰の推薦に係る審査会審査員	平成19年4月～
7	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県	島根県中山間地域等進行対策検討委員会委員	平成22年4月～
8	名和田清子 (健康栄養学科教授)	雲南市	雲南市学校給食調理業務等委託評価委員会委員長	平成24年4月～
9	名和田清子 (健康栄養学科教授)	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会理事	平成24年5月～
10	名和田清子 (健康栄養学科教授)	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会生涯教育委員長	平成26年4月～
11	名和田清子 (健康栄養学科教授)	公益社団法人島根県学校給食会	公益社団法人島根県学校給食会評議員	平成24年6月～
12	名和田清子 (健康栄養学科教授)	公益社団法人日本栄養士会	公益社団法人日本栄養士会 研究教育事業部企画運営委員会副委員長	平成26年8月～
13	名和田清子 (健康栄養学科教授)	まつえ市民大学運営協議会	まつえ市民大学運営協議会委員	平成25年4月～
14	名和田清子 (健康栄養学科教授)	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会副会長	平成26年6月～
15	名和田清子 (健康栄養学科教授)	奥出雲町	奥出雲町食育推進委員会委員長	平成25年8月～ 平成27年7月
16	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県牛乳普及協会	平成27年度牛乳・乳製品料理コンクール島根県大会審査委員長	平成27年9月～ 10月
17	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県	島根県立こころの医療センター給食業務委託総合評価委員会委員	平成27年9月～ 平成28年3月
18	名和田清子 (健康栄養学科教授)	島根県	島根県立中央病院給食業務委託に係る総合評価委員会総合評価委員会	平成27年9月～ 平成28年3月
19	名和田清子 (健康栄養学科教授)	出雲市	出雲市学校給食センター第二次再編整備検討委員	平成27年10月～
20	籠橋有紀子 (健康栄養学科准教授)	中国地域産学官連携コンソーシアム	中国地域産学官連携コンソーシアム連絡会議委員	平成25年4月1日～
21	山下由紀恵 (保育学科教授)	松江市	松江市子育て支援ネットワーク会議委員	平成19年5月～
22	山下由紀恵 (保育学科教授)	松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	平成19年5月～
23	山下由紀恵 (保育学科教授)	松江市	松江市教育委員会専門巡回相談事業相談員	平成23年8月～
24	山下由紀恵 (保育学科教授)	島根県	島根県障がい者自立支援協議会委員	平成23年4月～
25	山下由紀恵 (保育学科教授)	島根県	島根県障がい者施策審議会委員	平成23年4月～
26	山下由紀恵 (保育学科教授)	島根県	島根県子ども・子育て支援推進会議幼保連携型認定こども園検討委員会委員長	平成25年10月～
27	山下由紀恵 (保育学科教授)	島根県教育委員会	島根県しまねのふるまい推進連絡協議会会長	平成25年7月～
28	山下由紀恵 (保育学科教授)	島根県社会福祉協議会	保育の就職支援プロジェクト会議委員	平成27年4月～
29	山下由紀恵 (保育学科教授)	松江市	松江市総合戦略推進会議委員	平成27年4月～
30	岸本 強 (保育学科教授)	島根県教育委員会	島根県スポーツ推進審議会委員副会長	平成22年8月～ 平成30年8月
31	岸本 強 (保育学科教授)	島根県障害者スポーツ協会	障害者スポーツ支援助成金審査委員	平成23年7月～ 平成29年6月
32	岸本 強 (保育学科教授)	雲南市教育委員会	幼児期運動指針実践調査研究委員会委員	平成24年4月～ 平成29年3月
33	岸本 強 (保育学科教授)	島根県体育協会	しまね広域スポーツセンター企画運営委員会副会長	平成17年10月～ 平成29年9月
34	岸本 強 (保育学科教授)	島根県体育協会	普及委員会副会長	平成24年5月～ 平成29年4月
35	岸本 強 (保育学科教授)	公益財団法人松江市スポーツ振興財団	理事	平成25年5月～ 平成29年4月
36	岸本 強 (保育学科教授)	公益財団法人ごうぎん島根文化振興財団	評議員	平成23年5月～ 平成29年4月
37	岸本 強 (保育学科教授)	島根県バレーボール協会	統括アドバイザー	平成23年5月～ 平成29年4月

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
38	岸本 強 (保育学科教授)	中国大学バレーボール連盟	理事	平成 13 年 5 月～ 平成 29 年 4 月
39	岸本 強 (保育学科教授)	まつえ湖南学園地域推進協議会会長	地域推進協議会委員	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月
40	藤原映久 (保育学科准教授)	松江市	松江市障がい者総合支援協議会委員	平成 27 年 8 月 19 日 ～平成 29 年 3 月 31 日
41	藤原映久 (保育学科准教授)	社会福祉法人島根県社会福祉協議会	社会福祉法人島根県社会福祉協議会評議員	平成 26 年 6 月 1 日～ 平成 28 年 5 月 31 日
42	小泉 凡 (総合文化学科教授)	松江市観光振興部観光施設課	小泉八雲記念館顧問	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月
43	小泉 凡 (総合文化学科教授)	公益財団法人エネルギア・文化スポーツ財団	公益財団法人エネルギア・文化スポーツ財団理事	平成 27 年 5 月～ 平成 29 年 5 月
44	小泉 凡 (総合文化学科教授)	公益財団法人池田記念スポーツ文化財団	公益財団法人池田記念スポーツ文化財団理事	平成 27 年 6 月～ 平成 29 年 6 月
45	小泉 凡 (総合文化学科教授)	島根県立美術館	島根県立美術館協議会委員	平成 25 年 5 月～ 平成 27 年 5 月
46	小泉 凡 (総合文化学科教授)	松江市観光振興部国際観光課	アイリッシュ・フェスティバル in 松江実行委員会委員長	平成 27 年 10 月～ 平成 28 年 3 月
47	岩田英作 (総合文化学科教授)	島根県	島根県子ども読書活動推進会議委員長	平成 26 年 6 月～ 平成 28 年 6 月
48	岩田英作 (総合文化学科教授)	島根県	島根県調べ学習プレゼンテーションコンテスト審査員	平成 27 年 11 月
49	岩田英作 (総合文化学科教授)	島根県	出雲市立図書館協議会委員長	平成 27 年 12 月～ 平成 28 年 3 月
50	岩田英作 (総合文化学科教授)	島根県	松江市「小泉八雲をよむ」作詞・詩募集事業審査員	平成 28 年 2～3 月
51	マユアキ (総合文化学科教授)	島根県	島根県個人情報保護審査会委員	平成 26 年 4 月～
52	マユアキ (総合文化学科教授)	島根県	島根県情報公開審査会委員	平成 26 年 4 月～
53	マユアキ (総合文化学科教授)	松江市	松江市総合計画検証委員会委員(副委員長)	平成 22 年 8 月～
54	藤居由香 (総合文化学科准教授)	島根県	しまね景観賞審査委員会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
55	藤居由香 (総合文化学科准教授)	松江市	松江市都市計画審議会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 1 月 28 日
56	藤居由香 (総合文化学科准教授)	松江市	松江市都市計画審議会会長	平成 27 年 1 月 29 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
57	藤居由香 (総合文化学科准教授)	松江市	松江市緑地及び自然環境保全審議会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
58	藤居由香 (総合文化学科准教授)	松江市	松江市歴史まちづくり協議会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
59	藤居由香 (総合文化学科准教授)	島根県建築住宅センター	一般財団法人島根県建築住宅センター評議員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
60	工藤泰子 (総合文化学科准教授)	松江市	松江歴史館運営協議会委員	平成 26 年 11 月～ 平成 28 年 11 月
61	工藤泰子 (総合文化学科准教授)	松江市	平成 27 年度松江市立女子高等学校学校評議員	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月
62	工藤泰子 (総合文化学科准教授)	松江市	アイリッシュ・フェスティバル in 松江実行委員会委員	平成 25 年 11 月～
63	工藤泰子 (総合文化学科准教授)	島根県	島根県河川整備計画検討委員会委員	平成 26 年 10 月～
64	山村桃子 (総合文化学科講師)	島根県教育長文化財課古代文化センター	出雲国風土記校訂・注釈本作成指導委員会非常勤オブザーバー	平成 28 年 2 月
65	山村桃子 (総合文化学科講師)	島根県教育長文化財課古代文化センター	古典に登場する名勝地調査指導委員	平成 27 年 10 月～
66	山村桃子 (総合文化学科講師)	島根県教育長文化財課古代文化センター	古代歴史文化賞作業チーム会議アドバイザー	平成 27 年 5 月～
67	山村桃子 (総合文化学科講師)	島根県教育長文化財課古代文化センター	島根県古代文化センター企画運営委員	平成 26 年 11 月～
68	山村桃子 (総合文化学科講師)	松江市	松江市個人情報保護審議会委員	平成 27 年 9 月～

3 その他地域連携(貢献)活動等

NO.	教員氏名	相手方	内容	日付(期間)
1	酒元誠治 (健康栄養学科教授)	日本栄養改善学会	教育講演座長—講師:名古屋大学大学院医科学研究科 地域在宅医療学・老年科学 教授 葛谷雅文「超高齢社会における高齢者栄養の課題」	平成 27 年 9 月 25 日
2	酒元誠治 (健康栄養学科教授)	独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター	NST40 時間研修として「高齢者における BMI の推計と地域における高齢者の栄養管理に関する取り組みについて」と題した講演を行った。内容としては、これまで行ってきた在宅高齢者への介入研究と平成 27 年度の松江キャンパス紀要に報告した、ふくらはぎ周囲長(CC)から推定 BMI(e-BMI)の算出や、栄養介入効果について講演。	平成 27 年 12 月 1 日